

事例集

児童館でひろがる

遊びの プログラム

～児童福祉文化財とこどもの出会い～



児童館における児童福祉文化財を活用した遊びのプログラム

令和6年3月
こども家庭庁

CONTENTS

はじめに	3
児童館でひろがる遊びのプログラム	
児童福祉文化財とこどもの出会い	4
事例集を活用しよう!	5

遊びのプログラムの事例紹介

事例・01 岩手県立児童館 いわて子どもの森

- ♪ ▶ こんにやくざのおんがくかい (音楽)
- 😊 ▶ 手作り楽器とことばあそび

事例・02 草加市立松原児童青少年交流センター miraton (ミラトン)

- ♪ ▶ ギャング・エイジ (児童劇)
- 😊 ▶ 大きい声を出してみよう!
- 😊 ▶ ジェスチャーゲーム

事例・03 福岡市立中央児童会館 あいくる

- ♪ ▶ ともだちげきじょう (人形劇)
- 😊 ▶ パタパタことりちゃん

事例・04 神戸市立児童センター こべっこランド

- ♪ ▶ サーカスの灯 (ノンバーバル演劇)
- 😊 ▶ ジャグリング体験

事例・05 世田谷区立等々力児童館

- ♪ ▶ らふいゆ れふいゆ (ノンバーバル演劇×音楽)
- 😊 ▶ こども劇団員とパントマイム

意見交換会 - 児童館で実施した「遊びのプログラム」について

本事業の成果

児童館における「児童福祉文化財としての児童演劇鑑賞/遊びのプログラム」体験の意義 ... 48

資料

遊びのプログラム実現のために	52
打ち合わせ資料	54
アンケート様式	56
児童福祉文化財の紹介	58

「児童福祉文化財」の歴史は長く、昭和26年、当時の厚生省中央児童福祉審議会が、児童のためにより文化財を選ぶ場合の助けとする目的で、図書、映画、児童劇等の推薦をしたことが始まりです。令和5年4月にこども家庭庁が発足したことにより、現在はこども家庭審議会において、絵本や児童書などの出版物部門、児童劇やミュージカルなどの舞台芸術部門、映画や映像番組などの映像・メディアという部門の3部門で作品を審査、推薦をしています。昭和26年から70年以上の期間で推薦された児童福祉文化財は、15,000点を超えます。

本制度の創設当時とは社会情勢も変わりましたが、こどもの年齢や発達に合わせて推薦されている「児童福祉文化財」に触れることは、こどもたちの健やかな成長のために重要と考えています。また、子育てをする大人の心にゆとりと豊かさを与え、こどもとの落ち着いた関係を築く上でとても有効であるとされています。

今回、「児童福祉文化財」の中から、児童劇やミュージカルなどの舞台芸術部門の作品を児童館で公演し、それを活用した遊びのプログラムをモデル的に実施し、事例集として取りまとめました。各自治体、各児童館で参考にしていただき、今後、多くの児童館で、推薦された優良な児童劇等の舞台芸術作品を観てもらえる機会が増えていくとともに、作品との出会いをきっかけに、児童館等での遊びの活動を充実させていただくことを期待しています。

こども家庭庁
成育局成育環境課長

山口 正行

児童館でひろがる 遊びのプログラム

児童福祉文化財とこどもの出会い



全国5か所の児童館で児童福祉文化財の公演と、児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムを実施しました。

事例・01 岩手県立児童館 いわて子どもの森

事例・02 草加市立松原児童青少年交流センター miraton(ミラトン)

事例・03 福岡市立中央児童会館あいくる

事例・04 神戸市立児童センターこべっこランド

事例・05 世田谷区立等々力児童館



遊びのプログラムとは…

平成27年3月に国立総合児童センターこどもの城が閉館しました。こどもの城では、多くの遊びを開発し、全国に普及してきました。その数は約500種類にもなります。厚生労働省では、これらの遊びの分析や評価、またこどもの城が担ってきた遊びの普及啓発の機能を「社会保障審議会児童部会 遊びのプログラム等に関する専門委員会」に引き継ぎ、国が行う新たなプログラムの開発や、今後の児童館等のあり方について検討してきました。

同専門委員会が発表した最終提言（令和4年7月）において、「児童館をはじめとするこどもの居場所において、さまざまな遊びや文化的・社会的な体験活動は、こどもの心身の健康増進等、健全育成上、非常に有用であり、不可欠と言える」と記されています。この提言を踏まえ、こども家庭庁においても、遊びのプログラムの開発や普及啓発を続けています。

「遊びのプログラム」は多彩なものです。身体をつかうもの、道具をつかうもの、外でおこなわれるもの、一人でもできるもの、ルールのあるもの…さまざまなものがあります。定義づけることは難しいですが、児童館等ではあらゆる遊びのプログラムを活用し、こどもたちの健やかな成長・発達を支援しています。

事例集を活用しよう!

この事例集は、公益財団法人児童育成協会が令和5年度に子ども家庭庁から受託した「児童館等における児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムの開発および普及に関する調査研究」に基づいて作成しました。劇団による児童劇等の公演と児童館ならではのプログラムがコラボレーションして生まれた、楽しい遊びのプログラムです。

事例紹介のページは次のように構成されています

1 児童館と劇団の紹介

児童館と劇団の基本情報と特徴を紹介しています。



2 児童福祉文化財の公演内容紹介

児童館で実施した公演内容を紹介しています。コラム欄には「劇団が児童館で公演すること」、「工夫したほうが良いこと」をテーマに劇団が児童館で公演した時の感想や意見を紹介しています。

3 こどもたち・参加者の感想・イラスト

こどもたちや保護者の方の公演を観た感想や遊びのプログラムに参加した感想を言葉や絵で紹介しています。



こどもたち・参加者の感想・イラスト



4 活動(内容)

劇団の実施する公演の前後で実施したプログラムを紹介しています。劇とプログラムのつなげ方、必要な準備、進め方等を具体的に紹介しています。



5 活動のポイント、気づき、工夫・注意点、効果

児童館が児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムを実施する時に必要なポイントをまとめました。またこのプログラムが児童館やこどもたちにもたらした影響も紹介しています。

事例・01

♪ こんにやくざのおんがくかい 😊 手作り楽器とことばあそび

児童館 ▶ 岩手県立児童館 いわて子どもの森

劇団 ▶ オペラシアターこんにやく座

開催日 令和5年9月23日(土・祝) 参加人数 76名

児童館 情報



岩手県立児童館 いわて子どもの森

住 所	〒028-5134 岩手県二戸郡一戸町奥中山字西田子1468-2
電話番号	0195-35-3888
開館時間	9:00～17:00 ※感染症対策のため、現在は16時閉館です
休館日	毎週火曜日 年末年始、年4回整備休館あり
ホームページ	https://www.iwatekodomonomori.jp



2003年5月5日に開館した県立大型児童館です。岩手県北部の一戸町の自然豊かな30万㎡の広大な敷地内には、こども自身が遊び体験を通して、見て、聴いて、ふれて、感じる中で、驚きや発見、感動、多彩な出会いを育むためのさまざまな遊び場があります。

基本コンセプトは、「おとなもこどもも のんびり ゆっくり ぼけーっとしようよ」です。

県内のみならず東北各県や関東方面からの利用もあり、主な利用者は4～7才のこどもと保護者となっています。

劇団 情報



オペラシアターこんにやく座

住 所	〒214-0021 神奈川県川崎市多摩区宿河原7-14-1
電話番号	044-930-1720
E-MAIL	info@konnyakuza.com
ホームページ	https://www.konnyakuza.com



オペラシアターこんにやく座は、「新しい日本のオペラの創造と普及」を目的に掲げ、1971年に創立されました。生きた日本語で字幕も解説もなしに観客へはっきり届くオペラを目指しています。

オペラで培った表現を駆使したコンサートも数多く実施するなど、歌役者の歌い語り演じる力によって、こどもからおとなまで楽しめる多彩な作品をレパートリーとし、年間約200公演を上演しています。

劇団が児童館で公演すること

- 大人も子どもも安心できる場だからこそ、自由な雰囲気の中、小さい子から大人まで集中して鑑賞してもらうことができました。
- 今回のように、寝っ転がってみてもいいよ、歩いてもいいよ、飽きたら外に出てもいいよ、途中で出ても戻ってきてもいいよ、という鑑賞空間はあまりありません。子どもが安心するから、大人が安心する。大人が安心するから、子どもが安心する。そんな場所だからこそ、作品の世界観に集中して、じっくりと鑑賞してもらえたんだろうな、と感じました。
- どんな公演も、劇団としては、自由にのびのびと鑑賞してほしいという想いがあります。児童館での上演は、日常の遊びの中に飛び込む形になり、願ったり叶ったりな環境でした。



「白いクレヨン」
詩：山元 清多
曲：萩 京子

うたものがたり「ふきのとう」
詩：工藤 直子
曲：萩 京子



「月夜のでんしんぼしら」
詩・曲：宮澤 賢治
編曲：林 光



はなのの…「ことばあそびうた」より
詩：谷川 俊太郎
曲：萩 京子



工夫(配慮)した方が良く

- 今回、集客が想定より少なかったのですが、準備期間を取れば、より多くの方に鑑賞してもらえたかもしれません。公演の3～4か月くらい前には準備を始動させられるとよいと思いました。
- 劇場のような公演会場ではないので、場に慣れるために、当日、稽古の時間をある程度確保できると良いと思います。



こどもたち・参加者の
感想・イラスト



うたごえが
きれいだった

にじの歌
にじが出た見つけたときの
感情は**世界共通**だと
思った

ゆきが
みずになる所が
おもしろかった

くろやぎさん、
しろやぎさん4人で
歌ったところが
上手だった

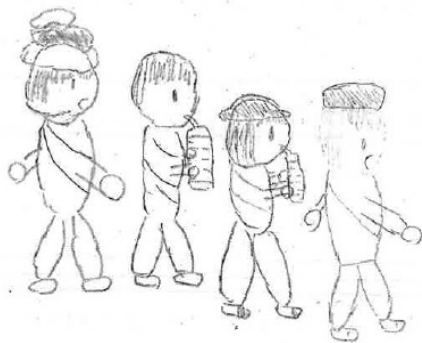


ゆくゆくした

木のがっきで
いろんな音楽を
かなでたところが
楽しかった

**生歌が
素晴らしい**

こんにやく座のみなさんが
いろんな言葉を言いながら、
演奏していたところが
心に残った



こんにやく座さんのことを
知らずに初めて見ました
とても素晴らしい公演
でした
こどもが知っている曲を
もう少し増やしてもらえると
もっと楽しめると思った

たのしかった

リズムにのって
動くところが
心に残った

構成がよかったので
全体的に楽しめた またやってほしい

私もピアノを習っているので、
**歌っている人と
合わせて演奏するところ**
が心に残った

● 活動(遊び)の内容

遊び



手作り楽器とことばあそび

「こんにゃくざのおんがくかい」の中の「ことばあそびうた」で感じた日本語の美しさやおもしろさ、言葉をリズムにのせた時のはずむような楽しさを、音具(おんぐ)作りと言葉のリズム遊びを通じて自分たちなりに表現しました。

● 劇からプログラムのつながり

『こんにゃくざのおんがくかい』の中の曲目のひとつである『ことばあそびうた』をモチーフにした言葉のリズム遊びを展開しました。

空き缶や空き箱、紙芯などのさまざまな材料を使って、割箸などの棒(バチ)で叩くと音がなる音具を作り、言葉に合わせてリズムを鳴らしたりリズムに合わせて言葉を言ったりして遊ぶプログラムを企画しました。

● プログラムの目的

- (1) 日本語のおもしろさや言葉をリズムにのせた時のはずむような楽しさを感じてもらいます。
- (2) 自分が作った音具でリズムを鳴らしたり、リズムに合わせて言葉を発したりして、表現する楽しさを感じて頂きます。

● 実施する上での準備

必要職員数 2～3人程度 **会場スペース** 公演会場で引き続き実施

所要時間 30分程度 **対象年齢** おおむね5歳から

必要物品 【言葉遊びのきっかけになるもの】※あった方が楽しいもの

- 早口言葉や、作品に登場したことばによく似た(韻を踏んだ)言葉、擬音語、擬態語などを書いた掲示物。例：作品に出てきた言葉が「かっぱ」なら、「らっぱ」「らっこ」「にっぱ」「はっぱ」など。
- ※あえて掲示しなくても、部屋内に置いてあるものや掲示物などを活用してもよいです。

【手作り楽器の材料】

- ジュースやお菓子などの空き缶、テープ芯などの紙芯、空き箱などの廃材。そのほか、叩けば音が出るものであればなんでもかまいません。いろいろな素材を用意すると、音にバリエーションが出て楽しさが広がります。

【バチ】

- 割箸などで自作してもよいです。

【そのほか基本の工作道具】

- はさみ・テープ類・のり など

【打楽器】

- カホンやタイコ、タンバリンなど、職員が音頭をとるためがあると便利です。

1 職員によるデモンストレーション

「もりもり もりもり こどものもり」「おおもり とくもり こどものもり」など「もり」のつく言葉を、音とリズムに合わせて発する「言葉遊び」を行いました。



2

参加者に「バチ」を一人ひとつずつ配布しました。



3

材料置き場へと案内しました。

色々な材料を叩いて、音を確認しながら自由に打楽器を作りました。

さまざまな素材を用意して、音にバリエーションを持たせます



4 言葉のリズムの遊び

音具ができた子は、職員と一緒に「もり」がつく言葉を考えながら、音具を叩きリズムに合わせて言葉をのせて遊びました。

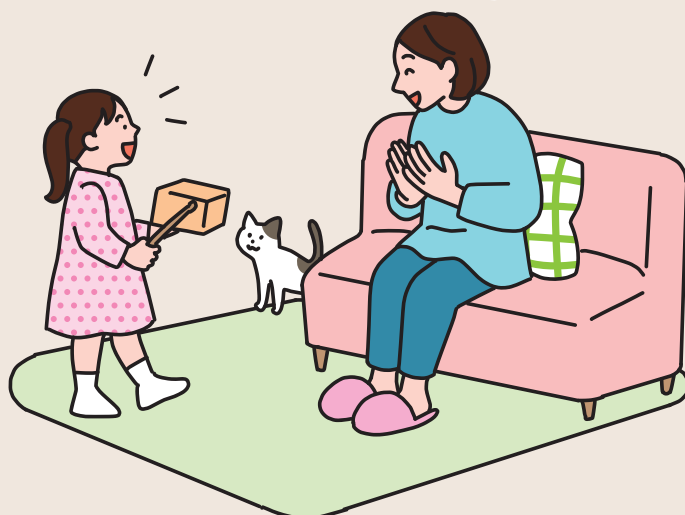
その子から自然にできた言葉を大切にします。



5 いつでもどこでも言葉のリズム遊び

作った音具とバチは持ち帰ってもらい、いつでもどこでも遊べるようにしました。

詩や早口言葉、ダジャレなどをリズムに乗せて言ってみましょう。



✓ 活動ポイント

- こどもたちから自然に出てきた言葉を大切に、一人ひとりの発想を受け入れることを大事にしました。
- のびのびと表現できるよう、言い間違いを責めたり訂正したりしないように進行了ました。
- こどもたちが「言葉遊び」をおもしろいと感じられるよう、職員もこどもたちと一緒に楽しむことを大切にしました!!

💡 気づき

- 早口言葉やオノマトペなどの「言葉遊び」や、言葉に合わせて手を叩いたりリズムを鳴らしたりすることは、日常の中でさりげなくやって(遊んで)いるものの、これらはこども自身の内から自然に湧き出てくることが多いと感じます。そのため、児童館において「言葉遊び」や「表現」をテーマにした遊びを、プログラムとして企画実施することの難しさをあらためて感じました。
- こどもたちが劇を観ながら、演者のセリフに合わせてつぶやいたり動きを真似しようとしたりする素振りが見られたので、このような場面や機会をとらえてその場で遊びに展開することができたから、自然な流れの中で楽しさが広がったように思います。
- 公演後の遊びのプログラムに続けて参加してもらえるように短時間で場面転換を行ったため、「音具作り」と「言葉遊び」のそれぞれについて丁寧に説明が行えませんでした。そのため、こどもも保護者も取っ掛かりやすい「音具作り」の方が盛り上がりすぎてしまい、メインの「言葉遊び」を深められませんでした。ただ、参加者はとても楽しそうに制作をし、また、各自で“もり”がつく言葉を考えては職員に思いついた言葉を教えてくれる子もいました。





📖 工夫・注意点

- 児童劇の公演会場をそのまま使用しました。公演直後の興奮冷めやらぬ雰囲気の中で、遊びのプログラムの流れに移行できるように心掛けました。
- プログラム実施の際は、職員が楽しみながら進行することで、参加者に楽しい雰囲気が伝わり、参加しやすい場にするように留意しました。
- 参加者が公演を観終わってから退室せず、続けて遊びのプログラムに参加してもえるような流れを作るため、はじめに一人1本ずつバチを渡し、楽器を作ってみたいと思わせる工夫をしました。こうすることで、楽器を制作するまえでも、すぐにリズム遊びを楽しめるような環境を作りました。

❗ 効果



こどもへの影響

- 芝居やオペラといった芸術作品はなかなかこどもが触れる機会の少ないものですが、児童館でこれらの公演を実施することで、本物の舞台に触れる機会となり、こどもたちは舞台の世界に入り込んでいました。また、参加した保護者からは、「本物に触れさせる良い機会が持てました」との声がありました。
- 生の歌声、パフォーマンス等の全てがこどもの感性を刺激して、豊かな情操を育む機会となりました。

児童館事業への影響

- 児童館では様々なジャンルの遊びのプログラムを実施していますが、「音を楽しむプログラム」はそのきっかけが難しく、ほとんど実施できていません。オペラを観劇することで、それに続く「音を楽しむプログラム」を展開できる貴重な機会になりました。

スタッフへの影響

- 公演内容にちなんだ遊びのプログラムを企画することで、自分たちでは普段やらないようなテーマについて考えて実施することができ、遊びのプログラムへのアイデアの幅が広がりました。



事例・02

♪ ギャング・エイジ 😊 大きい声を出してみよう! 😊 ジェスチャーゲーム

児童館 ▶ 草加市立松原児童青少年交流センター miraton (ミラトン)

劇団 ▶ 劇団風の子中部

開催日 令和5年10月8日(日) 参加人数 67名

児童館 情報



草加市立 松原児童青少年交流センター

住 所	〒340-0041 埼玉県草加市松原4-4-3
電話番号	048-941-0031
開館時間	9:00～21:00 小学生は夕焼けチャイム、中学生は19時まで
休館日	年末年始(12月29日～1月3日) 施設点検など臨時休館の際は別途お知らせ
ホームページ	https://sokamiraton.com



【miraton(ミラトン)】という愛称で親しまれています。30歳までの若者を中心にどなたでも利用できる施設となっています。大きなホールに小さい子とその保護者の方が過ごすおやこルーム、ダンス室、音楽室、工作やミーティングに使える創作工房など『やってみたいことができる施設』です。イベントもたくさんあります。

劇団 紹介



劇団 風の子中部

住 所	〒500-8241 岐阜県岐阜市領下21-16
電話番号	058-215-7780
E-MAIL	tokai@kazenoko.co.jp
ホームページ	https://www.kazenokotyubu.com/



1989年より劇団風の子弟事務所として主に普及活動を開始。2010年4月にあらたに創造集団として「劇団風の子中部」を設立。そして2018年4月、株式会社劇団風の子中部として新たな一歩を踏み出しました。オリジナル作品「かぶとやま大騒動」「ばらりっせ」「ギャング・エイジ」「ユエと瑠璃色の石」等の児童青少年向け作品や幼児対象作品の創造、普及活動を軸に、遊びのワークショップやコミュニケーション教育、演技指導、講演会などの活動も繰り広げてきました。

これからも、子どもたちと関わる様々な分野の方たちとともに、東と西の文化の重なり合う、日本のおへそ“岐阜”の地から、未来へ向けて新しい創造を発信し続けていきます。

● 児童福祉文化財の公演内容紹介

演目

🎵 ギャング・エイジ(児童劇)

主人公エイジは、元気で人気者な小学四年生。お笑い好きのタカヒロや優等生のミサキ、虫が好きになちよっと変わったココロ、ユニークな同級生たちと毎日を過ごしていた。

そんなある日、偶然が重なり、突然エイジは「らんぼうもの」のレッテルを貼られてしまう。

どうしていいかわからないエイジは学校を逃げ出し、中学生のイサオと出会う。イサオは「ギャング」という言葉をエイジに教えてくれた。

「弱い者いじめはダメだ。迷惑たれながす奴もだめだ。カッコいいギャングになるんだ」と語るイサオ。

学校で突然「らんぼうもの」になってしまったエイジ。枠に当てはめられるなら、いっそ自分から枠を飛び出してしまったら…?



ギャングエイジ

主催：劇団風の子中部

日時：2023年10月8日(日) 13:00~15:00
場所：草加市立松原児童青少年交流センター (miraton)

ホール ※開場は12:30 200人限定

対象：小学生以上

持ち物：室内用運動靴

主人公エイジは元気で人気者な小学4年生。ある日偶然が重なり、突然エイジは「らんぼうもの」のレッテルを貼られてしまう。そんなエイジの葛藤を描く物語です。令和5年度児童福祉文化賞を受賞している作品です。実際に劇を見た子どもから「親と一緒に見たかった!」と感想がありました。ぜひ親子で観劇してみませんか。たくさんのご参加お待ちしております。

駐車場は台数が限られています。イベントに参加する際は、徒歩・自転車または公共交通機関を利用してお越しください

エイジは決めた。目指すは「カッコいいギャング!」
タカヒロがピンチの事態に、ココロの機転とエイジの行動力で乗り切り、それをきっかけに、ココロのでっかい絵を描きたいという夢を知る二人。

ココロの夢を叶えるために、カッコいいギャングになるために、三人の作戦会議が始まった。



● 劇団から



夢は見るもん
じゃない、叶え
るもんだ

劇団が児童館で公演すること

- 子どもたちが慣れ親しんでいる空間の為、リラックスして観劇してくれたこと、アットホームな雰囲気楽しんでくれていたように感じました。
- 親子で一緒に観られることも安心感があってとても良かったです。



工夫(配慮)した方が良く

- 音響に関してももう少し詳しく調べておく必要を感じました。
- 反響音が気になりましたので、吸音材や反響の少ない部屋を使うなどすると、より良い劇空間になったかなと思います。



こどもたち・参加者の感想・イラスト



おもしろいひとたち
だなとおもいました。



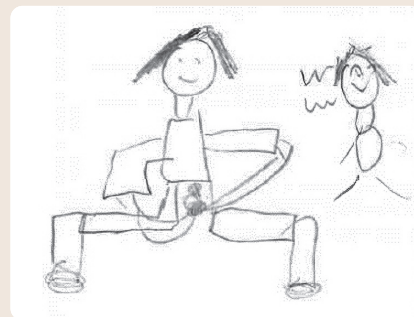
おオト=ちほまークたの



また
ちょっとちがうの
かみたいです。



やくしやさんの
えんぎが
すてきです。



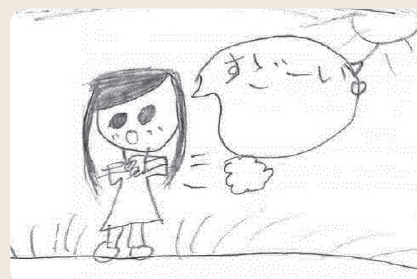
うたが
おもしろかった。



おもしろかった



ひさしぶりに
さけべた



● 活動(遊び)の内容

「劇団風の子中部」の迫力ある演劇を鑑賞した後、その勢いを借りて、緊張からの解放と劇中の訴えるような言葉の表現力を自身でも感じられるような取り組みとして、「みんなで声を出す」、「声を出さずに他の表現で伝える」プログラムを行いました。

● 劇からプログラムのつながり

「役者さんの声は大きくてはっきりよく聞こえます。声の出し方に何かコツがあるのでしょうか。せっかくなので役者さんたちにきいてみよう。」そんな切り出しで、声を出すプログラムを始めました。

● プログラム目的

- コロナ禍の影響で、声を出す機会が減っていたので、たくさん大声を出してリフレッシュできる時間としました。
- 短時間で話し合っ発表をするグループ活動で、意見や考えを聞いたり伝えたりするコミュニケーションの大切さを感じたり、みんなで協力してお題をやり遂げるおもしろさを感じてもらうことを目的としました。
- 言葉を使わずに伝える遊びから、表現することのおもしろさと、言葉の大切さに気づく機会としました。

● 実施する上での準備

必要職員数	2～4人	会場スペース	バレーボールコート以上
所要時間	10～20分	対象年齢	だれでも
必要物品	進行のアナウンス等のためマイク、スピーカーを準備しました。 ※大きな声で言うことやジェスチャーの内容を決めておくようにしました。		





大きい声を出してみよう!

1 声を出してみましょう だんだん大きくしてみましょう

司会者が出す質問に、各自が声を出して答えるところからスタート。くりかえす、好きな言葉を使う、みんなで揃えて言うなど、変化させることで、だんだん声が大きくなってきていることが確認できました。

2 役者さんの「大きな声」を聞いてみた

こどもたちが声を出すことに慣れてきたところで、役者さんの「大きな声」を聞いてみました。役者さんの大きな声に会場はどよめきました。役者さんから大きな声を出すコツは「届け! という気持ちに乗せること」と聞き、次のゲームにのぞみました。

3 役者さんと大声勝負

観客の中から対戦者を決め（何人でも参加OK）大声勝負を行いました。観客を挟み、舞台（役者）と反対側（対戦者）に立ち、10秒間それぞれ違うお題（3文字程度）を大声で連呼します。観客が審判として、お互いが何を言ったかを当てるゲームです。

4 聞き取り妨害ゲーム

観客の中から挑戦者（数名）を決め、役者さんと一緒に舞台に立ってもらいます。次に、回答者（数名）を決め、舞台と反対側に立ってもらいます。役者さんと挑戦者がお題（3文字程度）を連呼し、回答者が何を言ったか当てるゲームです。まんなかにいる観客は、妨害者としてお題が聞こえないように大声を出して邪魔をします。遊びながら会場が大きな声でいっぱいになりました!



ジェスチャーゲーム

1 各自でジェスチャーに挑戦

司会者が出すお題を体で表現してみました。イメージしやすいお題をいくつかやってみて体を動かすことに慣らします。例：「水泳」「野球」など

お題をどうジェスチャーするかをみんなで考えます。1グループごとに発表（出題）し、他のグループが当てるゲームです。まずは、簡単なお題にします。例：「運動会」「遊園地」など

2 グループに分かれて、お題にチャレンジ

観客を5つのグループに分けて、グループごとに出された

3 お題のレベルアップ

グループに慣れてきたところで、少し難しいお題にしました。例：「テレビを見て大爆笑している人」など

✓ 活動ポイント

- 司会者（コーディネーター）と、ファシリテーター役がいると良いです。
- コーディネーターは内容を端的で明確に、ファシリテーターはその言葉を周囲に伝えたり回答を拾うために動き回り、2人の掛け合いなどを織り交ぜながらスピーディーに展開を進めました。
- 集団の中で声を出すことは簡単ではないと考え、大声になるまでの過程は性急にならないように気をつけました。



💡 気づき

- 大声を出すときに、「ん」など大声になりにくい文字を入れて、難易度を調整しました。
- 始めに大声を出したことで全体的にリラックスモードになり、グループワーク中でも各チーム賑やかな意見交換ができたと思います。モチベーションを保ったまま展開していくタイミングは、時間ではなく現場の様子をよく把握して行うべきだと改めて感じました。
- グループワーク中、保護者の意見が先行してしまわないか心配しましたが、こどもの意見を聞いて保護者がまとめる場面や発言の少ないこどもに意見を促す場面がありました。
- あまり乗り気ではないように見えるこどもが、自分たちの問題を当ててもらった時に一番喜んでいた姿が印象的でした。

📖 工夫・注意点

公演と遊びのプログラムのつながりの工夫

- 今回は役者さんの協力を得て、「大きい声を出してみよう!」をしたおかげで、会場の雰囲気がとてもよくなりました。
- 劇団から見せていただいた過去のアンケートで、「お母さんと一緒に観たかった」という回答があったので、今回の作品を親子で鑑賞することを推奨したチラシを、近隣の小学校へ配布し広報活動を行いました。
- 開演前に終了後にアンケートとプログラムがあることをアナウンスしたことで、公演終了後すぐに出口に向かう人はいませんでした。



実施する上での工夫

- グループで役割分担して取り組める内容を考えました。
- 親子やグループで来館する方が多かったので、1人で来館した小学生が孤立しない様にスタッフや関係者に近くで援助をお願いしました。
- 公演が1時間を過ぎた頃、体勢を保つことができなくてこどもが横たわり始めた様子がうかがえ、マットを敷いた客席の良し悪しを感じました。



！ 効果

こどもへの影響

- それまでの感染症対策によって、発声そのものが抑えられていた時期が長かったため「久しぶりに叫んだ」という回答がありました。
- 活動を通じてグループみんなが友達感覚になれた印象を受けました。
- 劇団風の子中部のエネルギー溢れる公演に「おもしろい!」「たのしい!」と幅広い年齢層のこどもの心が躍動したようです。

児童館事業への影響

- 声のプログラムを行うことが今までなかったこと、思ったより手軽で他館に紹介しやすいと感じました。
- 市内のおやこ劇場の方々と交流を持つことができ、劇団と児童館のつながりができました。

スタッフへの影響

- 各グループの様子を観察していると、小さいこどもの言葉があまり取り上げられていない様子がありました。児童館の日常活動においても発言力の小さいこどもの発信にも気づくことが必要だと感じました。



事例・03

♪ ともだちげきじょう 😊 パタパタことりちゃん

児童館 ▶ 福岡市立中央児童会館 あいくる

劇 団 ▶ 人形劇団ののはな

開催日 令和5年12月17日(日) 参加人数 96名

児童館 情報



福岡市立中央児童会館 あいくる

住 所	〒810-0021 福岡県福岡市中央区今泉1丁目19-22 天神クラス6階
電話番号	092-741-3551
開館時間	9:00 ~ 21:00
休 館 日	毎週月曜日、月曜日が祝日の場合は翌日 年末年始(12月28日~1月3日)
ホーム ページ	https://www.jidoukaikan-aikuru.or.jp/



福岡市中心部にある、唯一の児童館で1970年に創設。2016年、複合ビルに建て替え、その内の5~7階、屋上が当施設としてリニューアルオープン。「児童館」「地域子育て支援拠点事業」「一時預かり事業」の3つの機能が備わり、福岡市内外からの利用があり、近年は、中・高校生世代の利用も増加。アウトリーチ活動も多数実施し、館から離れた地域の方々にもプログラムを提供。

劇団 紹介



人形劇団ののはな

住 所	〒803-0852 福岡県北九州市小倉北区新高田1-14-6
電話番号	093-582-5139
E-MAIL	noudomi.tosirou@wine.plala.or.jp
ホーム ページ	https://www.nono87.net/



私たちは、夫婦で人形劇をやっています。2人とも、九州で生まれ育ちました。東京の人形劇団で、活動していましたが、九州のこともたちのために働く事ができたらいいなあと、なつかしい九州に帰ってきました。

野の花は、大地や雨やお日様の恵みをもらい、花を咲かせ、やがて実を实らせませす。そして、またその実を大地に返すのです。そんな活動でありたいと「ののはな」という劇団の名前にしました。

● 児童福祉文化財の公演内容紹介

演目

🎵 ともだちげきじょう(人形劇)



しろくまちゃん

しろくまちゃんがともだちをみつけて遊ぶお話です。



ウレタンロボット

こどもの正義感と、成長する中での出会いと交流を描いたお話です。



こっぶんこシアター

紙コップを使ったかみしばい。5つのお話があります。



ぴよんちゃんけろちゃん

うどんのうーやんバケツの中からかえるくんが出てきたよ。



うどんのうーやん

(作:岡田よしたか・ブロンズ新社刊)
人手不足なので うどんのうーやんは自分で出前にでかけます。

はらぺこのネコに出会ってうどんを食べさせてあげました。

ありやりやりやりや うどんが半分になってしもた! どないしよう…。

岡田よしたかさんの絵本が人形劇になりましたよ。



劇団が児童館で公演すること

- こどもたちが自由に活動できる場所で、こどもたちの好奇心を刺激する演劇活動ができることはこどもたちの行動心や表現しようとする心を育てるのに役に立つ物と思います。そんな児童館で、人形劇の公演ができたこと、喜ばれたことを、嬉しく思います。
- 児童館はこどもの遊び場ですが、孤独を解消できるととても良い場所だと思います。こどもたちが友だちと心を開き、自分を表現する取り組みと活動をさらに進めていただきたいと思います。



工夫(配慮)した方が良く

- 児童館の職員がお客さんではなく、劇団の人と一緒にこどもたちを刺激するような取り組みを考え工夫していくと、良い結果を生み出すように思います。
- こどもたちは、刺激を受けると、行動したくなるものです。運営面では、そんなこどもたちが、刺激を受けたことを、実際にやったりする道具や材料があると良いかも知れません。





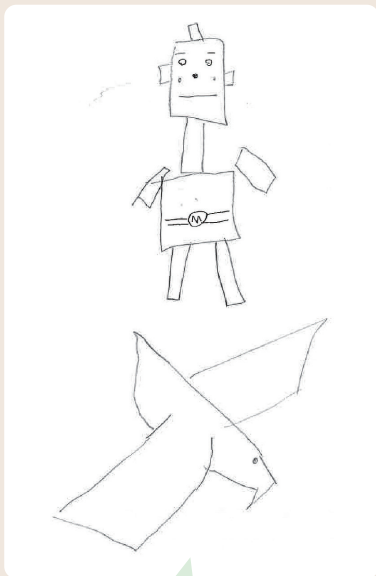
こどもたち・参加者の
感想・イラスト



鳥を動かすこと

鳥を使って
ジャンケンしていました
(くちばしはチョコキなど)

1つ1つのストーリーはシュール
だけど、考えさせられることも
あり、親も真剣に見てました。



げきが
うまかったです

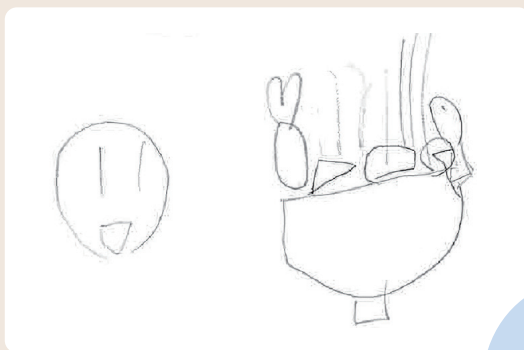
おりがみが
かわいい鳥に
なったこと

ともだちげきじょうの
人がやさしくて
おもしろかった



息子と一緒に
工作できた

こどもが初めて
ホッチキスを使う
経験になった



うどんが
坂道を登るとき
ドキドキした

● 活動(遊び)の内容

遊び



パタパタことりちゃん

児童館プログラムと人形劇団の工作プログラムのコラボレーションで生まれたプログラムです。

● 劇からプログラムのつながり

人形劇団による人形劇の上演後、人形作りの導入として、児童館職員4名による人形劇「カラスの親子」の上演を行いました。その劇に出てきたカラスと同じ形、同じように羽が動く人形作りを企画しました。

● プログラム目的

- 自分で作って遊ぶ楽しさを感じる機会にします。
- 道具の使い方や工夫を学ぶ機会にします。
- 演じる(表現)事を楽しみます。
- 身近な素材を使って簡単に作れるので、今回以外でも「作ってみよう」「工夫してみよう」という創作意欲を育てます。

● 実施する上での準備

必要職員数	館長、副館長、職員4名 計6名	会場スペース	上演会場で引き続き実施
所要時間	30分	対象年齢	幼児親子、小学生
必要物品	児童館では人形劇上演用に台本、カラス人形(母①、こども③)の作成、マイクを準備しました。人形劇団では人形の工作材料(折紙1枚、ストロー2本、丸シール2枚)を袋にひとまとめにしたもの、ホッチキスを準備しました。		

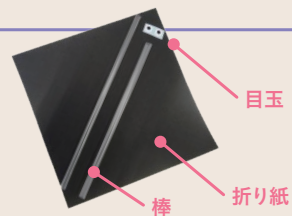
1

児童館職員による 人形劇「カラスの親子」

元々は単手人形で職員が演じていた内容をこどもたちが作るパタパタと羽が動く鳥の人形にアレンジしたものです。お母さんカラスに寝なさいと言われるけれど何度も起きてしまうこどもカラスとお母さん鳥のやりとり思わず笑ってしまうお話です。

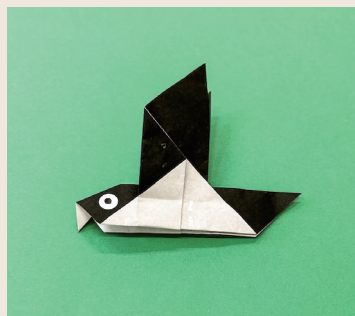


2 参加者に人形作りの材料を配布しました

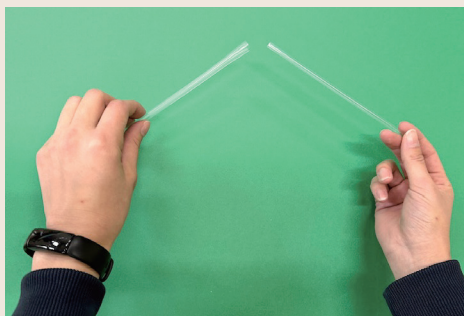


3 人形劇団が人形の作り方を教えました

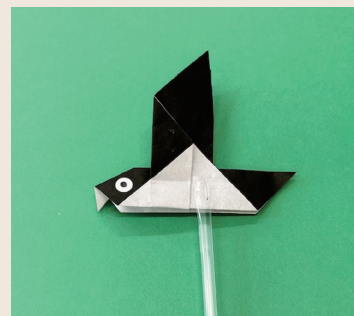
完成!



① 折り紙をおりました



② 棒をつくりました



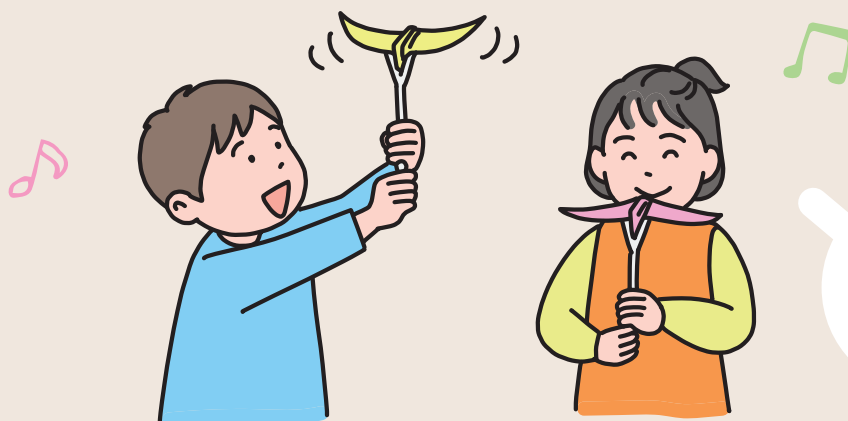
③ セットすると完成!



こうして、
おるんだよ

事前に作り方を教わっていた児童館職員も個別に対応しました。

4 パタパタ飛ぶ ことりさんで遊びました



パタパタことりが
うごいたよ

✓ 活動ポイント

- こどもたちに人形劇を楽しんでもらえるように、人形のサイズや人形の動かし方など職員同士で試行錯誤しながら取り組みました。
- こどもたちが「人形を作りたい」と思えるように、職員が楽しんで人形劇の練習、上演を行いました。
- 人形の作り方の説明は劇団が行いました。そうすることで、プロから直接教わるという体験を大切にしました。

💡 気づき



児童館 × 劇団

- 児童館職員と人形劇団が同じ対象であるこどもたちの遊びと成長について一緒に考え、行動するという事が新鮮でした。

児童館の強み × 劇団の力

- 公演自体は、その日一回限りですが、公演をきっかけにその後の児童館の活動の中で継続的な取り組みが可能であり、発展していけるので、劇団の力を今後さらに生かしていくことで、表現活動への取り組みが深めていくことができます。

豊かな表現への模索

- 今回は創作活動だったが、次回は演じることにポイントを絞ることで、こどもたちの表現活動の体験の機会になります。

プログラム効果発信のために

- 今回のプログラムだけでこどもたちの変化などの効果を検証するのは難しいと感じています。そのため、効果測定しやすい測定方法や、指標、視点などを今後見つけ出していくことも必要だと思いました。

📖 工夫・注意点



公演と遊びのプログラムのつながりの工夫

- 人形作りの導入として取り組んだ人形劇をこどもにとって身近な児童館職員が行うことで、人形作りや表現活動を身近に感じる機会にしました。



実施する上での工夫

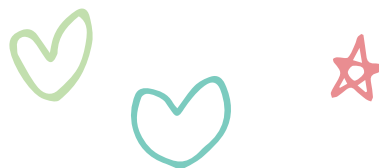
【人形劇について】

- 「作ってみたい」と思えるように、こどもたちが作る人形と同じ形態の人形を人形劇に登場させました。
- 人形劇を楽しんでもらえるように、人形の大きさ（こどもたちがよく見えるように）、人形の動かし方、人形が登場するタイミング、人形がけこみ（舞台）で隠れて見えなくなるような人形の高さ、など職員同士で考えました。
- 劇団から「羽の動かし方（早く動かす、ゆっくり動かす）」ことを教えてもらいました。また職員同士で練習する中で、色々工夫しました。児童館職員に演劇経験者がいたのでアドバイスをもらいました。

【人形作りについて】

- 幼児親子が中心だったので、材料を立ち上がり取りに行かなくても良いように、材料は事前の一袋にまとめて配布しました。（これにより、動線の確保を気にせずに、幼児親子がすぐに取りくめました）
- 今回はホッチキスを使用しましたが、職員が場所を分担して、上手く使っているか声掛けをして安全管理を行いました。

！ 効果



こどもへの影響

- 公演では、身近にある素材が人形に変身し、命が吹き込まれました。そのことがこどもの想像の世界を豊かに彩ったようです。
- 職員による人形劇により、こどもたちにとって人形作りがより親しみやすく、創作意欲も高まりました。
- 児童館に来るきっかけ、友達になるきっかけ作りになりました。一緒に見たことで共通の話題ができ、プログラム終了後に一緒に遊んでいる姿がありました。その後も児童館で会うと挨拶をしている様子もありました。

児童館事業への影響

- こどもたちに見やすい位置や声の大きさなど普段の児童館活動にも生かせる表現の仕方を考える機会となりました。
- 子育て支援事業やイベント時に使える人形劇の素材、製作のアイデアが増えました。そのことで、今回来られなかったこどもたちも楽しめる機会を作れることは大きな効果でした。

スタッフへの影響

- 人形劇等を行うことは今までにもあったが、創作活動へつなげることはなかったので、創作活動への導入としての新たな手段を知れました。
- こどもたちが友だちと心を開き、自分を表現する活動を今後広げていくことができそうです。

事例・04

♪ サークスの灯

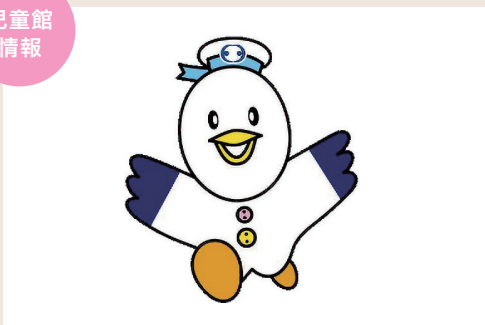
😊 ジャグリング体験

児童館 ▶ 神戸市立児童センター こべっこランド

劇 団 ▶ ラストラダカンパニー

開催日 令和6年1月7日(日) 参加人数 139名

児童館 情報



神戸市立児童センター こべっこランド

住 所	〒652-0862 兵庫県神戸市兵庫区上庄通1丁目1-43
電話番号	078-958-8011
開館時間	9:30～17:00
休館日	月曜日(祝日の場合は開館。翌日の火曜日が休館)
ホームページ	https://www.kobekko.or.jp/



令和5年2月に移転・リニューアルオープンしました。神戸らしい「船」をモチーフにし、甲板をイメージしたデッキがあります。様々な遊具が施設のあちこちにあり、施設全体をこどもたちが遊びながら移動することができます。料理や音楽といった様々な体験をすることもできます。子育て中の親子向け講座なども実施しており、子育ての悩みも気軽に話せることができます。また、発達がゆっくりなこどもたちへのサポートも行っています。

劇団 紹介



ラストラダカンパニー

住 所	〒453-0801 名古屋市中村区太閤一丁目7番20号
電話番号	050-6872-8646
E-MAIL	lastrada.clown@gmail.com
ホームページ	https://www.lastradacompany.net/



国内外で道化を学んだChang&LONTOにより、道化師と様々な表現を追求すべく2018年に設立。

名古屋在住道化師。アーティスト、パフォーマー。言葉を使わないノンバーバル (non-verbal) の舞台を中心に全国の劇場、幼稚園、保育園、学校、おやこ劇場、こども劇場での公演他、大道芸、人形劇の公演に出演するなど様々な出演形態を持つ。クラウン(道化師の・ピエロ) 講座やパントマイム講座、身体表現のワークショップ開講などワークショップ企画も行う。道化師や、パフォーマー、ダンサー、人形劇、演劇関係など様々な場所へ身体表現の指導を行う他、舞台共演をしています。

演目



サーカスの灯(ノンバーバル演劇)

小さなサーカスの中でおこる色々なこと。ひとつの雨粒が大海原になったり大きな紙でかくれんぼ。たくさんの筒の上に乗っておとつと、紙の人形も動き出す。

ある日、サーカスを乗せた汽車がやって来た。その先にあるのは真っ白なサーカステント。あれれ？サーカスを始めようとするも星が落ちちてきちゃったんだけど。...どうしよう？

サーカスはいつの間にかやって来て、いつの間にか去っていく。あたりまえのことが、あたりまえでなくなってしまうかのように...。いつかどこかへ行っちゃうの？

真っ白な和紙のサーカステントに言葉を使わない二人の道化師(クラウン・ピエロ)が贈る舞台は、まるでおとぎ話のようで想像力をかき立てる作品



劇団が児童館で公演すること

- 職員さんとの関係性やいつもの場所という点から、こども達が劇場空間よりもリラックスした状態で観劇できると感じました。劇場だと普段舞台を観たことない子達はまずその空間に緊張してしまうことがあります。
- 日常からこども達と触れ合っている児童館の方と話す機会をもち、舞台の搬入搬出やワークショップなど一緒に行うことで職員さんがどの様にこども達と接して、どんな安全配慮を行っているのかなど私達も参考になりました。
- 初めて舞台を見る親子や児童が能動的に楽しむのに望ましい環境で、言葉のない、絵本のようにゆったりと進む本作「サーカスの灯」を上演する環境としても上演しやすく、見やすい広さの確保もでき、とても効果の期待できる講演となったと感じています。



工夫(配慮)した方が良かったこと

- 公演後、体験コーナーが始まる前から、ジャグリング道具で積極的に遊ぶこどもたちと職員やスタッフの方との関わり方が素晴らしく、スムーズに体験コーナーに転換して進めることができました。
- 体験に参加せず、観劇後帰る観客との交流(いわゆるロビーでの送り出し)みたいなことも事前に準備しておく良かった。意識が体験に取られていて事前に準備していなかった。
- 対面での打ち合わせは実施の下見も兼ねられたことで、搬入、仕込み、本番のイメージがお互いに共有でき、大変良かった。そのおかげで当日の設営や運営もスムーズであった。
- 普段劇を見慣れていない観客を想定して、会場内の安全性や鑑賞マナー等を周知する配慮が必要かと思います。





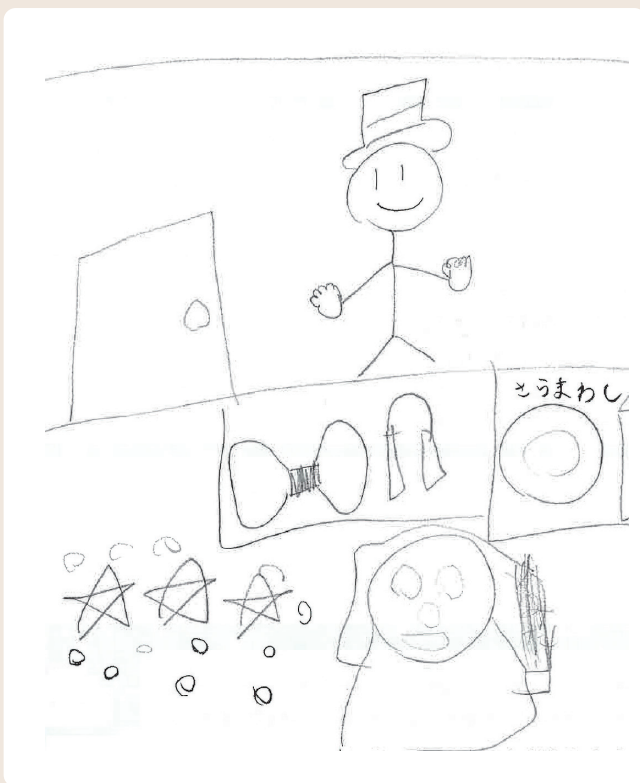
こどもたち・参加者の
感想・イラスト



エスカレーター
での
かけあい。

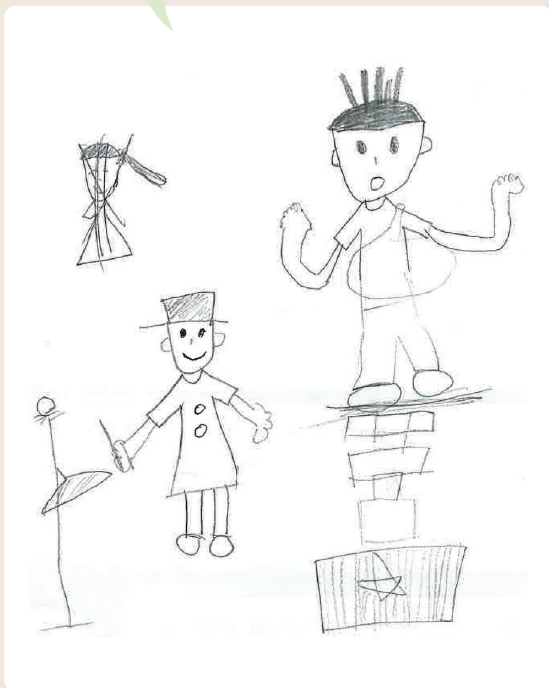
とてもかんだうしたし、
とてもすごいなとおもったし、
じぶんもやりたいと
おもった。

○や□のうえに
いたをのせて、男の
ピエロがしっぽいした所が
おもしろかった。



じぶんでも
やってみたいと
おもった。

いちばんさいごにあった、
ばらんずのが、
ドキドキしました。



楽しかった!!

● 活動(遊び)の内容

遊び



ジャグリング体験

映像からジャグリング体験につなげるプログラムです。技術伝達でなく遊びとしての体験を大切にしました。

● 劇からプログラムのつながり

「サーカスの灯」の公演鑑賞後、こどもたちのパントマイムやジャグリングへの興味・関心が高まっていると考え、小学生以上を対象に実際に体験できるワークショップを実施しました。こどもたちが気軽にチャレンジできるように、演者とも相談して、皿回しとディアボロを準備しました。こどもたちの動機づけとして、「曲芸マスター認定証」を作成し、技ができれば中高生ボランティアにシールを貼ってもらうようにしました。

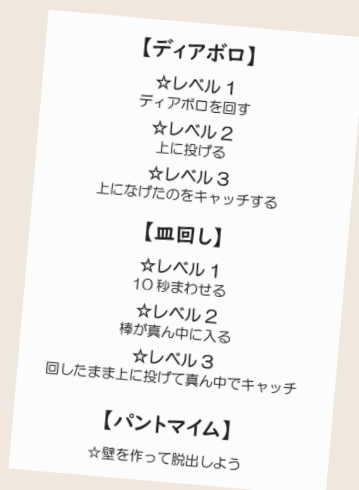
今回のプログラムでは、公演の演者を中心に実施したワークショップを、児童館職員が学びアレンジすることで、継続的にパントマイムやジャグリング体験ができるような仕組みをつくりこを1つのゴールとしました。

● プログラム目的

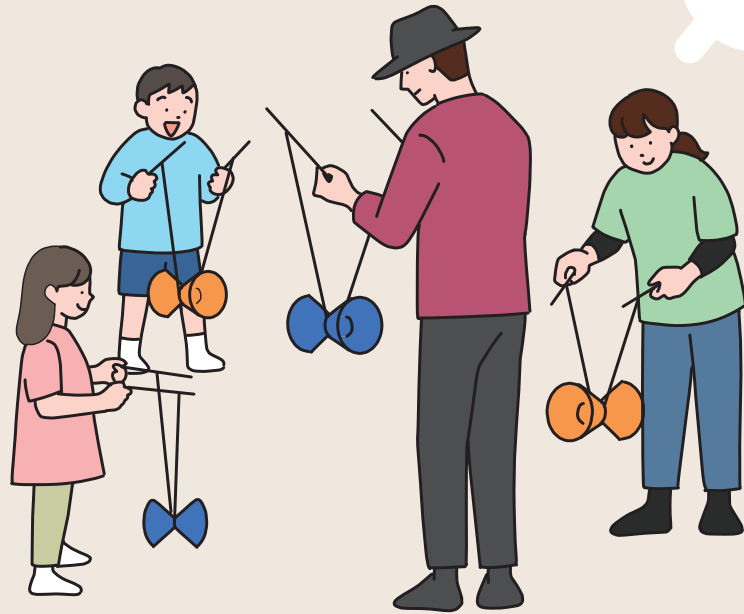
こどもたちが直感的に理解できるパントマイムとジャグリングのコツを映像などでこどもたちに伝え、中高生ボランティアがロールモデルとしていっしょに遊ぶことで、こどもたちが気軽にジャグリングやパントマイムにチャレンジし、自由な表現活動を楽しむことを目的としています。

● 実施する上での準備

必要職員数	1～2名・中高生ボランティア	会場スペース	適宜(ディアボロをする場合はある程度の天井高が必要)
所要時間	30分程度	対象年齢	小学生以上
必要物品	● 皿回しセット・ディアボロ・曲芸マスター認定証 ● シール・レベル表示のポスター ● ジャグリングやパントマイムのコツを伝えるための映像・モニター		



ジャグリングプログラムでは、公演をきっかけに作成した映像、さまざまな技に挑戦し、できるとシールを貼ることができる曲芸マスター認定証、そして、その中高生ボランティアが関わることで、子どもたちが遊びの延長としてジャグリングを楽しむプログラムにしました。



特に、今回の公演の演者は、子どもたちがのびのびと試行錯誤をしながら、遊びながら自然と技術を身につけ、新たな技を生み出して欲しいとの願いから、直感的なコツのみを伝えるというスタンスをとっていました。何か型にはめていくような指導ではなく、自由に道具に触れ、自らチャレンジをしていくプログラムです。ここを児童館職員や中高生ボランティアがしっかりと理解することが大切です。



✔ 活動ポイント

- こどもたちが自由にジャグリングの道具に触り、自由に体験できる空間を準備することを大切にしました。
- そこにいる児童館職員や中高生ボランティアは、道具を扱うハウトゥーを伝えるのではなく、楽しそうに遊び仲間として存在すること。特に中高生ボランティアが楽しそうにチャレンジしている様子が、こどもたちのロールモデルになるように心がけました。
- 上手くできずに諦めてしまうこどもには、コツのビデオがあることを伝え、いっしょに見て、いっしょに再チャレンジすることにつとめました。
- ディアボロ・皿回しともに、とがった棒状の道具があったり、周りに飛んでしまうこともあったりするので、安全管理をしっかりとしました。
- パントマイムについては、1人でチャレンジすることはこどもたちにとってハードルが高いことが予想されたため、数人のグループに、中高生ボランティアが加わって実施したことが効果的でした。

💡 気づき

技術を伝えようとする、その遊びの本質的な楽しさよりも、できる・できないという価値観が大きくなり、こどもたちにとっては遊びでなくなってしまう可能性があります。逆に、いっしょに楽しむ存在がいること、適度な教授機会があることで、こどもたちの遊びのモチベーションが保たれます。遊びプログラムを実施する中で、こどもたちを「やってみたい!」という気持ちにするために大切なことを改めて学んだように感じます。



📖 工夫・注意点

気軽に子どもたちが手にすることができるように、ある程度の数の道具を準備することが必要です。『こべっこランド』の場合、神戸市の中核的施設であるため、地域の児童館に貸し出すことができるキットを準備しています。

こべっこランドには中高生ボランティアがいます。子どもたちの活動を活性化するために、中高生ボランティアの存在は多くの可能性があります。楽しそうに活動するロールモデルとして、励ましたり、いっしょに悩んだりする心理的サポーターとして、技ができた時にシールを貼ってともに喜ぶなど、いくつもの役割を担ってもらうことができます。

中高生ボランティアがいない場合には、小学校高学年の子どもたちにこうした役割を担ってもらうことも可能です。

! 効果

- 子どもたちは、2人の道化師が繰り広げるおはなしの世界に引き込まれ、自分も主人公になったようでした。
- 今回のプログラムでは、単に技術を段階的に学ぶ体験ではなく、コツは教えてもらったとしても自分で自由に表現することを楽しむことを大切にしました。そのために子どもたちは技の成功、失敗だけでなく偶然に生まれた技に名前をつけて改めてチャレンジするなど、本来の遊びの要素が多く入っているように感じます。このことは、参加のモチベーションが持続することにつながっています。
- 中高生ボランティアなどのロールモデルの仕組みを構築することによって、子どもから子どもへの遊びの継承が可能となりました。



事例・05

♪ らふいゆ れふいゆ 😊 こども劇団員とパントマイム

児童館 ▶ 世田谷区立等々力児童館

劇 団 ▶ ラストラダ・カンパニー

開催日 令和6年1月27日(土) 参加人数 50名

児童館 情報



世田谷区立等々力児童館

住 所	〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-25-16
電話番号	03-3703-3506
開館時間	9:30～18:00
休 館 日	月曜日、第2・4日曜日、年末年始、国民の祝日(5月5日を除く)
ホーム ページ	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/012/008/002/003/d00187495.html



以下の4つの年間目標のもと、一人一人に寄り添うアットホームな場づくりを心がけています。

- ①子どもたちの豊かな遊び体験と仲間づくりを進める中で、安心して主体的に活動できる環境にする。
- ②中高生世代の多様なニーズに寄り添える居場所となるとともに、幅広い交流への関心を引き出しその活動を広げていく。
- ③子育て中の親子が気軽に相談や交流ができる環境を整え、子育ての楽しさを実感できる機会の充実を図る。
- ④地区関係機関との連携をさらにすすめ、地区ネットワークの拠点としての基盤作りとする。

劇団 情報



ラストラダ・カンパニー

住 所	〒453-0801 名古屋市中村区太閤一丁目7番20号
電話番号	050-6872-8646
E-MAIL	lastrada.clown@gmail.com
ホーム ページ	https://www.lastradacompany.net/



国内外で道化を学んだChang&LONTOにより、道化師と様々な表現を追求すべく2018年に設立。

名古屋在住道化師。アーティスト、パフォーマー。言葉を使わないノンバーバル(non-verbal)の舞台を中心に全国の劇場、幼稚園、保育園、学校、おやこ劇場、子ども劇場での公演他、大道芸、人形劇の公演に出演するなど様々な出演形態を持つ。クラウン(道化師の・ピエロ)講座やパントマイム講座、身体表現のワークショップ開講などワークショップ企画も行う。道化師や、パフォーマー、ダンサー、人形劇、演劇関係など様々な場所へ身体表現の指導を行う他、舞台共演をしています。

演目



らふいゆれふいゆ

(ノンバーバル演劇×音楽)

チラチラ枯葉の舞い散る頃、楽譜を手に一人の音楽家がやってきた。

そこに現れたのは旅芸人の気ままな道化師二人組。

ちょっかい出したり出されたり、噛み合わない3人のおかしな物語が始まる。

やがて季節は移り行き...

音楽家と道化師が落ち葉の中で繰り広げる

楽しくも美しい言葉のない舞台です。



劇団が児童館で公演すること

- ホールに観劇に出かけるような緊張感がなく、とてもリラックスして日常の中に舞台を届ける感覚が非常に面白い。
- すでに職員の方との関係性ができており、今回はこども劇団員を事前に募り、公演が始まるまでのポスター作り、ワークショップの道具づくり、本番の進行、音楽サウンドチェック、客電の担当など、責任をもって行ってもらいました。
- 舞台が楽しかったこともあるでしょうが、こども団員達の姿を見て、自分も手伝いたいと感じその場に来てくれた子も何人かいて、そんな広がり方がとてもステキでした。
- 搬入搬出に関しては、こどもたちの日常の遊びが溢れる中を横切る危険性もあるが、準備をする、片付けをするという様子も間近に感じ取れるチャンスでもあり、興味を持って声をかけてくる子、お手伝いしてくれる子もいました。



工夫(配慮)した方がよいこと

- 公演を行ったという実績もとても大切です。どのように取り組み、どのようにこどもたちが関わり、どんな刺激がこども達に届いたか、を各児童館でトライしてもらいたいと思いました。そのために労力も費用もかかっていますが、多くない公演のチャンスを最大限に活用してもらいたいと願います。
- 不特定多数のこどもが来る場なので、作品に応じた対象年齢の相談、募集の方法などは今後もお互いに丁寧に擦り合わせていきたいと考えています。

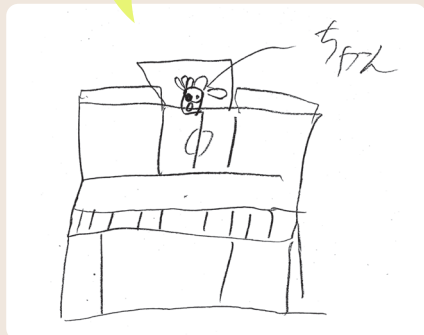




こどもたち・参加者の
感想・イラスト



ピアノのところが
ここにのこった。



いろんなところで
げきをやってほしいと
おもった。



ダンボールの
かばんが
うれしかった。



曲をその場で作曲
して、ひけるのが
すごいと思った。
ピアノの中から人
が出てくるのが面
白かった。楽器が
上手だった。



プロの方が来てく
ださってパントマ
イムがいっしょに
やれてうれしな
かったです。



とてもおもしろくて
たのしかったです。
らい年も見たいです。

じぶんたちも
できるように
なりたい



表現力がすごかったので、
きっと沢山練習や経験を積
んで身についたのかなと思
うと、とっても感動しました!!
(1人で勝手に想像して1人で
勝手に感動していました。)



● 活動(遊び)の内容

遊び



こども劇団員とパントマイム

こどもを信じて任せきる——こどもの参画と遊びの展開。実現する楽しさを知り、多様な大人の背中に触れる機会となりました。こどもの参画でもっと公演を盛り上げたい!児童館と劇団が一緒に考え、等々力児童館独自のこども劇団員と、持続性のある遊びのプログラムが誕生しました。

● 劇からプログラムのつながり

等々力児童館でのらふいゆれふいゆ公演は昨年に引き続き2回目であり、連続性を持てる良さがありました。こどもの参画について劇団との事前打ち合わせで検討した結果、昨年公演を観たこどもたちから運営サポートを行う「こども劇団・ラストラダカンパニー」を設けることになり、遊びのプログラムについてもこどもの要望をできるだけ盛り込む方向となりました。

公演約1カ月前に募集を開始し、小学生5名が集まりました。

● プログラム目的

こどもが自ら参画し、主体的に活動する機会としました。

また体験を通して、人前で表現することの楽しさを感じ、達成感を得ることを目的としました。

● 実施する上での準備

必要職員数	職員2名	スペース	児童館
所要時間	公演までの2週間前～1カ月程度	対象年齢	小学生以上
活動内容	職員と劇団との事前打ち合わせ(1回) こども劇団員と劇団との事前打ち合わせ(1回) こども劇団員の事前作業(2回) ●児童館職員と劇団と実際に打ち合わせを行い、公演に向けて役割分担を決めました。 ●公演チケット、ポスター、スタッフ証、司会アナウンス原稿、遊びのプログラムで使用する小道具(段ボール靴)に至るまで、こども劇団員が準備を行いました。		

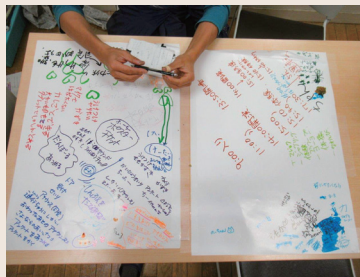
「こども劇団員」の活動

1

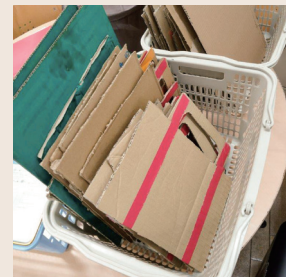
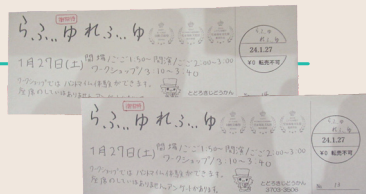
昨年度らふいゆれふいゆを見たこどもたちから「こども劇団員」を募集し、小学生5名がエントリーしました。劇団の人が来てくれた事前打ち合わせ日には、当日までの準備、当日の役割分担のほか、公演後の遊びのプログラムを劇団の人と一緒に考えました。



2 いろいろな意見を紙に書き出しながら進めました。子どもたちが、自分でやりたいものを決めました。



3 当日までにチケット、ポスター、遊びのプログラムで使う段ボールなど、いろいろ準備しました。



4 当日は劇団の人とリハーサルをし、受付、会場整理、アナウンス、カメラマン、司会、照明などの仕事をこなしました。子ども劇団員の司会で公演がスタート!



5 遊びのプログラムでは材料の配布もしました。2グループに分かれての発表タイムでは最前列で頑張る姿も見られました。



劇団の人と一緒に最後の挨拶をし、公演終了後には劇団の人と振り返りを実施しました。

最後の振り返りでは、子ども劇団員から「楽しくてわくわくした」「失敗ないように準備したのがよかったと思う」「緊張しすぎておなかが痛くなった」「緊張しなかった」などの声が上がりました。

小道具(段ボールのカバン)を使ったパントマイム

1 感想・質問コーナーから始まりました。劇中で使われた手作り葉っぱの数当てクイズでは、みんなが手を挙げました。仕掛けピアノの秘密も教えてくれました。

2 子ども劇団員のみんなが準備した段ボール鞆を、子ども劇団員自ら観客に配りにきました。

3 周りの人とぶつからないように広がり、パントマイムのスタート!

鞆を持つ手を入れ替える、鞆の周りを回ってみる、軽めに引っ張ってみる、強めに引っ張ってみるアクションをみんなで練習しました。動きより大事なものは「反応(表情)」と教えてもらい、みんなそれぞれ考えながらやってみました。

4 最後は2グループに分かれて発表し合いました。体をのけぞらせるオーバーアクション、険しい表情など、様々な反応を子どもたち自身考えて行っていました。

5 段ボール鞆でなくペットボトルでもできると教えてもらいました。



✓ 活動ポイント

- こども劇団員の役割としては、初めからできないの線引きはせず、こどもたちの思いを聞き取り、当日まで必要な役割を考えるとところから一緒に進めました。
- 遊びのプログラムの内容は、こども劇団員と劇団でゼロから考えました。昨年のものが最高に楽しかったので全く同じでいいという案のほか、マジックやジャグリングを含め様々な提案の中から決定しました。
- 遊びのプログラムも劇団と一緒に考え、「ダンボールを集める、切るなどの作業がこどもの参画もしやすいこと」「何もなくともできるのがパントマイムだが、「もの」があると継続性・持続性が生まれる」などを劇団と話し合い、小道具(ダンボール)を使ったパントマイムになりました。

💡 気づき

公演後にこどもたちは友達と感想を言い合っていて、「去年と少し違っていた」など去年の公演のことも克明に覚えていて、文化芸術がこどもの心に与える影響の大きさを感じ、文化的な活動がこどもにとって大切な機会であり、与えられるべき体験だということに気づきました。公演を見て笑い声をあげたり、質問を投げかけた際一斉に手を挙げるなどの姿を見ると、安心して参加している証拠であり、関係性が担保された状況で良質な文化財に触れるということが大事だと感じました。

等々力児童館の日々の運営の中でも「こども企画」として取り組んでいます。こどもが安心して思いを言葉にできる環境があり、その言葉が具体的に反映される経験を重ねていくことがセットで参画だと感じました。

公演内容に「隙間」を作っていると劇団の方が言っており、こどもの反応を確かめながら一緒に作り上げていくことができる、こうしたところにも児童福祉文化財の良さと価値があると感じました。

劇団とよく話し合い、お互いのやりたいことを共有し合うことが必要だと思います。





工夫・注意点

- こども劇団員が安心して思いを伝え、その力を最大限生かせるよう、事前打ち合わせに来て下さった劇団とも目的を共有し、こどもにかかわる大人の対応に差異がないよう環境を整えました。また、やりたいことはやるし、やりたくないことはやらなくていいと初めに伝えることで、選択するのがこどもの側であることを明確にしました。
- こどものやりたいことには職員が具体化する手伝いをし、こどもたちに伴走しました。スタッフ証を作ると、こどもたちの自覚とやる気が自然と上がりました。
- 意見表明に慣れていないこどもに対しては、職員が代弁をするなどし、気持ちを引き出す手伝いをしていました。



効果



こどもへの影響

ノンバーバルなお話の世界、こどもは想像のつばさを思い切りひろげて、楽しんでいました。

こども劇団員への影響

準備から当日、裏方から表舞台と、それぞれ希望のジャンルで活躍したこどもたちは、長丁場であったがやり切ったいい顔をしていました。

劇団さんからこどもたちに対して、「こども劇団員と一緒に活動するのははじめての試みだったが、こちらもとても楽しかった」「こども劇団員は自分たちの役割が頭に入っていたし、積極的に自分たちで考えて準備していた」「カメラマンの子が自分から動いて写真を撮っていてよかった」「劇の最中にぐずってしまった子に、こども劇団員の一人が声をかけて寄り添っていた。周りの参加者にも劇に集中できるように、泣いてしまうとその子も保護者もつらい気持ちになってしまうから、そうならないように（声をかけた）とのことだったが、場の全員にとって気持ちの良い空間を目指す私たちと同じ発想。まさにこども劇団員だと感動した」との話がありました。プロの劇団の皆さんから直接伝えてもらえたことは、こどもたちにとって貴重な機会だったように思います。多様な大人の背中に触れ、生き方のロールモデルとなるような機会となったと強く感じました。

児童館で実施した「遊びのプログラム」について 意見交換会を行いました

(2024年2月14日開催)



調査研究委員

目黒区子育て支援部
子育て支援課児童館係 係長

大倉 毅さん



調査研究委員

玉川大学
名誉教授

方 勝さん



調査研究委員

明治学院大学
心理学部教授

小林 由利子さん



調査研究委員

岩手県立児童館 いわて子どもの森
チーフプレーリーダー

長崎 由紀さん



調査研究委員

児童健全育成推進財団
事業部長

渡部 博昭さん

子どもにとって良質な児童劇との出会いが大切

- 各児童館で公演を続けていくために、地域で学校、その他児童福祉施設との協働も大事。子ども達に舞台芸術を届けたい
- 出演者としては、ファンタジーの作品を見たあとは、ファンタジーのままで帰って帰って欲しいという面もある

児童館ならではの環境が 児童劇の魅力を更に輝かせた

- 今まで関心が無かった子ども、親子が児童劇を身近に感じるきっかけができる
- 気軽に、リラックスして観劇できる
- 子ども達が一体感を持ってライブ感を楽しめているのが、児童館ならではの

- 安心できるいつもの場所に劇団が来てくれることで、子どもは安心して観劇できる
- プロもアーティストとの交流が自然にもてるのも児童館での公演のメリット
- 日常使いの児童館が観劇できるホールになって、特別感があった
- 大人も子どもも声をあげて楽しんでいた
- 観劇はよそ行きな雰囲気もあるが、児童館ならではの、感情を表出出来ていたのが良かった
- 親子と一緒に共感できる、お互いを身近に感じる機会となる
- 親は子どもの様子や反応を通じて、子どもの成長を知ることができる

劇団と児童館のコラボレーションが、 子どもが主役の遊びのプログラムを生み出した

- 新たな児童館プログラム開発のきっかけとなった



児童館職員

草加市立松原児童青少年交流センター

水野 恭子さん



児童館職員

福岡市立中央児童会館

諫山 大輔さん



児童館職員

神戸市立児童センター

井上 利恵子さん



児童館職員

世田谷区立等々力児童館

村松 将典さん

全国5つの児童館で実施した遊びのプログラムが全て終了後の2月14日、今回のプログラムに携わった児童館職員の皆様、調査研究委員と専門員の先生方、ワーキング委員が一堂に会して意見交換会を行いました。児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムの可能性、そして児童館がこどもと児童福祉文化財の豊かな出会いの機会をもたらす居場所となるために今後どんな取り組みが必要かを、それぞれの立場で自由に話し合いました。



専門員

ラストラーダカンパニー有限会社
代表取締役

兵藤 禎晃さん



専門員

特定非営利活動法人 こどもの城合唱団
代表理事

吉村 温子さん

みなさま
お疲れ様でした!

貴重なご意見
ありがとうございます!

- 劇団とのコラボレーションが、新たな魅力を生み出した
- こども自身が選択し、主役になる機会となった
- 遊びの中では、こどもも大人も平等だった
- 中高生世代がプロの公演から学んだり、ボランティアとして活躍出来る機会になった
- 限られた時間の中ですべて完結させるのではなく、プログラムを継続させることが、あらたな魅力を生み出す
- 社会に役に立つ事(参画)することがうれしいのは、大人もこども一緒

こども達が児童福祉文化財に
気軽にアクセスできる環境が大切

- こどもたちが児童福祉文化財に継続的に触れ合う機会が必要
- 観劇会や研修などを開催し、児童館職員が感情を揺さぶられる体験等を通して、児童劇の価値を知る、感じる事が大切
- 様々な機会を通じて、こどもの保護者にも児童福祉文化財の価値を伝える
- 限られた予算の中で実施するためにも、地域の様々な機関が連携することが必要
- 児童福祉文化財の愛称を考えるなど、児童福祉文化財をもっと身近なものにする
- 児童館で児童福祉文化財を普及させるためのアドバイザーがいると良い

劇団と児童館の事前打合わせはとても大切

- 現地(児童館)打合わせを行うことで、環境を肌で感じる事ができる
- 事前打合わせで、こどもの自主性を促進させる



ワーキング委員

目黒区立碑住区センター児童館

山本 博之さん



ワーキング委員

草加市立氷川児童センター

渡邊 恒一さん



ワーキング委員

世田谷区立希望丘青少年交流センター

下村 一さん



ワーキング委員

港区立麻布子ども中高生プラザ

翠尾 由美さん



ワーキング委員

世田谷区立野毛青少年交流センター

蛭名 野亜さん

本事業の 成果

児童館における 「児童福祉文化財としての 児童演劇鑑賞/ 遊びのプログラム」 体験の意義

2023年度「児童館等における児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムの開発及び普及に関する調査研究」は、2022年度「児童館における児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムに関する調査研究」を基盤にした児童館における児童福祉文化財としての児童演劇鑑賞とその直後に実施される「遊びのプログラム」についての調査研究です。この2年間の継続調査研究は、さまざまな成果を示すことができました。

ノーベル経済学賞を受賞した労働経済学者のジェームズ・J・ヘックマン (James. J. Heckman) は、「子供が成人後に成功するかどうかは幼少期の介入の質に大きく影響される。スキルがスキルをもたらし、能力が将来の能力を育てるのだ。幼少期に認知力や社会性や情動の各方面の能力を幅広く身につけることは、その後の学習をより効果的にし、それによって学習することがより簡単になり、継続しやすくなる」(Heckman, 2015, p.34) と述べています。今回の児童演劇鑑賞と遊びのプログラムは、こどもの「認知能力と社会性と情動」を育成できる体験になっています。児童演劇鑑賞は、目の前で何が起きているかを五感を通して認知する機会を提供し、グループで鑑賞しているので社会性の体験でもあり、登場人物に自分を投影しながらさまざまな感情を体験することができます。さらに、遊びのプログラムにより、グループで活動することで社会性が育成され、ファシリテーターの言葉を理解し、感情を伴う具体的なアクションとして表現する機会になっています。児童福祉文化財は、厳選されたアートなので、こどもたちは質の高い文化的体験ができます。そのことが大人になってからの生活の質と関係しているのです。ヘックマンは、「幼少期の介入は経済的効



明治学院大学 心理学部教授

小林 由利子

率性を促進し、生涯にわたる不平等を低減する…幼少期に投資を集中し、その後の投資でフォローアップすれば、公平性と効率性の両面を達成できる」(Heckman, 2015, p.35)と強調しています。ヘックマンの研究結果の影響で欧米において、乳幼児を対象にした助成金が増大しています。大人になってさまざまな問題が発生してから、対処するために投資をしても効果的でないということです。

アメリカの演出家・脚本家・研究者であるヴァージニア・G・コウスティ(Virginia Glasgow Koste)は、「ドラマ(drama)と演劇(theatre)という芸術は、子ども時代の自然な劇的遊び(dramatic play)をルーツにしている」(Koste, 1978, p.xviii)と述べています。コウスティのいう「劇的遊び」とは、何らかの「イマジナティブ・トランスフォーメーション(imaginative transformation)」という精神的行為(the mental act)がある活動のことです(Koste, 1978, p.6)。イギリスの演劇/ドラマ教育と創造性についての実践的研究者であるジョナサン・ニーランズ(Jonathan Neelands)は、ドラマは「連続体の一部で、子どもの遊びを起源にして、今後、演劇という芸術様式において文化的・個人的発達につながる」(Neelands, 1984, p.7)と述べています。つまり、演劇のルーツが子どもの「遊び」であり、その関係は連続し、子どもの文化的発達と個人の発達に関係している、ということです。アメリカの俳優で研究者であるハレーン・S・ローゼンバーグ(Helene S. Rosenberg)は、「劇的遊びもクリエイティブ・ドラマもイメージとアイディアを劇的行為に変換することを含む」(Rosenberg, 1987, p.3)と述べています。つまり、参加者は考えたことを具体的な行為として表現します。

これらのことから、演劇のルーツはこどもの「遊び」であり、「遊び」と演劇は共通して見立てと変身があり、イメージとアイディアを行為に変換する特徴があるといえます。したがって、演劇を鑑賞し、遊びのプログラムを体験することは、創造過程をグループで体験することです。

演劇に深い造詣がある心理学者であるレフ・S・ヴィゴツキー(Lev S. Vygotsky)は、こどもにとって「遊び」と演劇がさまざまな面で関係があり、「子どものあらゆる創造の源である遊びと直接結びついているので、最も混合主義的である、そのなかに非常に多様な創造分野の諸要素を内容として含んでいる」(Vygotsky, 2018, p.124)と述べています。ヴィゴツキーによれば、演劇は、他の芸術分野より、創造の源である「遊び」と共通する要素を多様に含みながら融合している、と指摘しています。つまり、「遊び」とドラマと演劇は、創造過程の体験であり、その過程を通して、創造性が育まれるといえます。そして、こどもが生涯にわたり「遊び」続けていくためのルートとして、芸術としてのドラマと演劇の体験があるといえます。このことを具現化しているのが、昨年度と本年度の児童演劇鑑賞と遊びのプログラム体験を連携した調査研究であるといえます。

さらに、この児童演劇鑑賞と遊びのプログラム体験は、「子どもの権利条約」第31条に明記されている「児童がその年齢に適した遊び及びレクリエーションの活動を行い並びに文化的な生活及び芸術に自由に参加する権利を認め」、「児童が文化的及び芸術的な生活に十分に参加する権利を尊重しかつ促進するもの」としている事業であると高く評価できます。具体的には、児童が児童福祉文化財として認められた児童演劇

を鑑賞し、直後にアーティストと一緒に遊びのプログラムに参加しています。児童演劇鑑賞という芸術に参加し、遊びのプログラムという文化的・芸術的である活動に参加しています。この体験をして児童にとってどんな成果があるかという以前に、児童は児童福祉文化財である児童演劇を鑑賞し、実際に遊びのプログラムという文化的・芸術的活動に参加する権利があるのです。この権利を保障しなければならないのが、こども家庭庁であり、児童館であり、大人の責任であると思います。

特筆すべき昨年度と本年度の調査研究の顕著な成果は、児童館職員の研修となっていたことです。研究調査のための選択された児童福祉文化財は、児童にとっても大人にとっても芸術としての質の高い作品であると同時に児童館で児童演劇鑑賞後に実施される遊びのプログラムにつなげることが可能な作品です。各児童館でこれらの児童福祉文化財である児童演劇を鑑賞した児童館職員は、アートに触発され、何かこどもたちのためにしよう、というやる気を喚起され、具体的な活動として演劇鑑賞と遊びのプログラムをこどもたちと共に発展させていました。

たとえば、福岡市立中央児童会館において、職員が遊びのプログラムのカラスのパペットの試作品をたくさん創り、さらに職員たちがそのカラス・パペットを使った演劇作品をこどもたちに遊びのプログラムの一部として見せてから、こどもたちがパペットづくりに取り組みました。まさに、職員の研修の機会になっていました。それも、自ら進んで取り組むという状況を生み出していました。まさに、自発性を触発されたのです。

世田谷区立等々力児童館において、演劇鑑賞の前にこども劇団員を募集して、彼らがポスターを創り、ワークショップの道具を作成し、公演の進行も行い、音楽等も担当し、写真撮影もしました。こどもたちと劇団と職員が、まさに協働して、児童演劇鑑賞と遊びのプログラムを企画・実施しました。それぞれが新たな発見をして、お互いに触発され、高揚感を伴う素晴らしい体験になったと思います。こども劇団員を支える職員の仕事は大変と想像できますが、それを楽しく積極的にしているところが、有意義な職員研修になっていたと思います。

予算の関係上、すべての児童館が児童演劇鑑賞と遊びのプログラムを実施できないかもしれませんが、年1回職員研修として、児童福祉文化財の演劇作品を鑑賞する機会があると、各児童館の遊びのプログラムを発展するためのアイデアを得たり、さまざまな触発を体験できたりすると考えます。

児童演劇鑑賞／遊びのプログラムという分がちがたくつながっていることにより、こどもたちも、職員たちも、俳優たちも、「あー、楽しかった！」という体験ができるのです。そして、この体験が、大人になってからのポジティブな生き方に繋がり、生きていく支えになると確信しています。

注

ノーベル経済学賞受賞者で、シカゴ大学ヘンリー・シュルツ特別待遇経済学教授である。「就学前教育がその後の人生に大きな影響を与えること」(大竹文雄, 2015, p.110)と就学前教育で重要なことは、認知能力だけでなく、「忍耐力、協調性、計画力といった非認知能力も重要である」(大竹, 2015, p.110)ことを明らかにした。

ヴァージニア・G・コウスティ(Virginia Glasgow Koste)(1924-2010)。イースタン・ミシガン大学名誉教授。両親が併

優で幼少期から子役で、ヴァッサー大学で演劇と「遊び」の研究をして、ウェイン州立大学でMAを取得し、コーネル大学・ノースウェスタン大学大学院等で研究した。他方、俳優・脚本家・演出家として活躍した。1962－1985年までイースタン・ミシガン大学・大学院で子どものためのドラマ／演劇プログラムの主任教授であった。保育者経験もあり、クリエイティブ・ドラマ・リーダーでもあった。「演劇／ドラマ／演劇連続体」を重視した実践的研究者であると同時にプロの脚本家／演出家であった。

ジョナサン・ニーランズ (Jonathan Neelands) PhD・DSc、National Teaching Fellow。ウォリック大学ビジネス学部クリエイティブ教育学科教授、前教育学部ドラマ・演劇教育学科主任教授。ミドル・スクールの教師経験もある世界的に著名なDIE (Drama in Education) のファシリテーターであり、演劇／ドラマ教育の著名な研究者で、書籍・論文多数。

ハレーン・S・ローゼンバーグ (Helene S. Rosenberg) PhD。ラットガー州立大学・大学院准教授。俳優の経験もある実践的研究者。主著として、児童青少年演劇概説書 Theatre for Young People: A Sense of Occasion(1983)とクリエイティブ・ドラマ概説書 Creative Drama and Imagination: Transforming Ideas into Action(1987)。

レフ・S・ヴィゴツキー (Lev S. Vygotsky)(1896-1934) 発達心理学者。ベラルーシの裕福なユダヤ人家庭に生まれる。モスクワ大学で法学、シャニャフスキー人民大学で歴史と哲学を学ぶ。さらに、社会科学、心理学、言語学、文学、美術を学び「心理学のモーツァルト」と呼ばれ、発達心理学をはじめ多数の実験研究と理論的研究を行い、現在の発達心理学や特別支援教育にも影響を与えている。大学卒業後出身地のホメリに戻り、文学・心理学・美学・美術史等を教える。ゴメルスキー国民教育部演劇課の主任も務め、『芸術心理学』(1925)により学位を取得。没後に名著である『思考と言語』(1934)出版される。著書・論文多数。37歳の若さで亡くなる。

引用・参考文献

Dewey, J. 河村望訳 (1934) 経験としての芸術 人間の科学 新社 (Art as Experience (1934) New York: The Berkley Publishing Group.

ヘックマン, J. J. (2015) 古草秀子訳 『幼児教育の経済学』 東洋経済新報社.

Koste, V.G. (1978) Dramatic Play in Childhood: rehearsal for Life. New Orleans: Anchorage Press.

Neelands, J. (1984) Making Sense of Drama: A Guide to Classroom Practice. Oxford: Heinemann Education Books.

Pullman, P. 小林由利子訳 なぜ演劇か? なぜ子どもか 『児童・青少年演劇ジャーナル げき』 5 4-7.

Rosenberg, H. S. (1987) Creative Drama and Imagination: Transforming Ideas into Action. New York: Holt, Rinehart and Winston.

Vygotsky, L. S. (1923) On Children's Theatre. (Marques, "Young Vygotsky: unpublished works about art and the role of artistic creation in child development". p.7)

ヴィゴツキー, L. S. 広瀬信雄訳 (2002) 『子どもの想像力と創造』新読書社.



遊びのプログラム実現のために

～取り組みの目安～

こどもが自由に遊ぶ場である児童館で、こども達と児童福祉文化財の豊かな出会いを実現するためには、丁寧な事前準備が必要です。

今回は児童館・劇団・事務局と協力して、下記のスケジュールで進めました。

このモデルスケジュールを参考に、各施設の事情に合わせてながら取り組みましょう。

オンラインを活用すると
打ち合わせが効率的に!



オンライン打ち合わせ

- 実施日のスケジュール確認
(開場・開演時間、遊びのプログラム)
- 実施目的の確認
- 観客 (人数、年齢層、席)
- 広報周知 (方法、チラシ作成、整理券)
- 遊びのプログラム提案
- こどもの参画、役割の検討
- 必要な物品

1ヶ月前

2ヶ月前

企画・立案

劇団への依頼

- 児童福祉文化財の選定
- 実施日の調整

できるだけ
早いほうがよい!
(遅くとも半年前)



当日

終了後

- こどもの感想や意見の聞き取り (アンケート等)
- 舞台、客席の片付け、撤収作業

ふりかえりと次回に向けて

プログラム

- 進行、参加者の誘導
- プログラム実施 (公演、ゲームや遊び)
- 参加者のサポート 等

公演

公演前

- 劇団受入
- 資材搬入、舞台設営
- 劇団と当日の流れ・役割の確認
- 観客席セッティング
- リハーサル
- 開場・客入れ・開演前案内 (司会)

公演中

- 会場の見守り
- 途中離席者誘導

公演後

- 遊びのプログラムへのいざない (司会)

児童館での打ち合わせ

- 劇団担当者による公演会場の下見 (広さ、音響、照明、観覧席の配置、観客の出入口、搬入搬出経路、控室など)
- 遊びのプログラムの役割分担
- 劇団との事前準備・プログラムレクチャー等

児童館で顔合わせをしておくと当日の流れがスムーズ!

公演後のプログラム参加への誘導方法がキーポイント!

打ち合わせ資料

今回の調査研究事業で使用した児童館と劇団の打ち合わせ資料を参考資料として掲載します。事前に児童館と劇団にそれぞれ記入していただき、打ち合わせの時に、この資料を見ながら当日の動きを確認しました。

調査研究事業 児童劇上演について 【劇団様⇒児童館様 連絡確認用】

認識相違がないことを確認するため、既定の内容もお手数ですが下記記載願います。

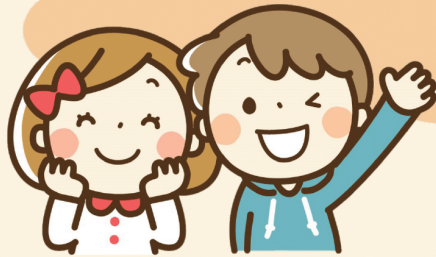
事項

①劇団名	
②公演日時	(公演+WS) 月 日() 時 分 ~ 時 分 (準備) 時 分 ~ 時 分頃 (撤収) 時 分 ~ 時 分頃
③担当者名	TEL E-mail
④作品名	
⑤対象	才 ~ 才程度 (動員: 人程度希望)
⑥劇団編成	男性 人 / 女性 人(演者 スタッフ含む)
⑦楽屋(控室)	(要・不要) / *その他(要・不要)
⑧駐車場	要・不要 *車の大きさ()
⑨暗幕	(必要・不要) *無い場合の対応策()
⑩会場について	*希望 *電源(家庭用・業務用、口 A) *その他
⑪カーゴゾフ [®]	*内容 *準備物
⑫その他 連絡事項	

アンケート様式

プログラム終了後、参加した子どもや保護者の方からの率直な意見が聞けるようアンケート調査を実施しました。幼児の場合は保護者が聞き取りを行って書いてもらいました。内容は児童館の実態やプログラムの内容によって工夫しましょう。

子どものみなさんへの アンケート



今日はきてくれて
ありがとうございました♪

みなさんのかんそうを
おしえてください！



Q1 あなたはなんさいですか？ ()さい

Q2 「 _____ 」をみておもったことに○をつけてください。

- ・ たのしかった
- ・ うっとりした
- ・ かんどうした
- ・ かんがえさせられた
- ・ とくにない
- ・ ときどきした
- ・ ぼかぼかした
- ・ もっとみたいとおもった
- ・ じぶんでもやってみみたいとおもった
- ・ そのた()
- ・ わくわくした
- ・ のびのびした

公演名を
入れます

Q3 いちばんころにのこったところはどこですか？

Q4 じどうかんでまたこんかいの「 _____ 」のようなことをやってほしいとおもいますか？

- ・ またやってほしい
- ・ いまはみたいとおもわない

児童福祉文化財の紹介

令和5年度児童福祉文化財推薦作品

こども家庭庁こども家庭審議会では、こどもたちの健やかな育ちに役立ててほしいため、絵本や児童図書等の出版物、演劇やミュージカルの舞台芸術、映画等の映像・メディア等の優れた作品について毎年推薦しています。ここでは令和5年度に推薦された作品を紹介します。

舞台芸術部門



1 眠っているウサギ

申請者：一般社団法人劇団コーロ
 分野：演劇100分
 対象：中学生以上、保護者・指導者等、一般(啓発)



2 BALLARE

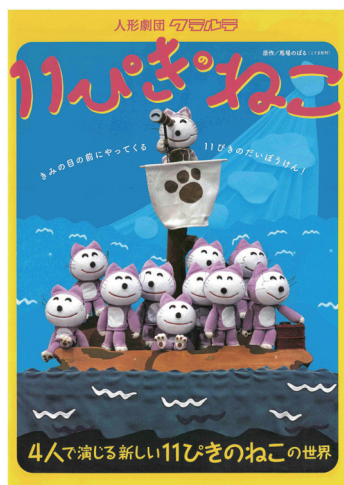
～箏と舞踊の出会い～

申請者：吉澤延隆箏曲研究所
 分野：音楽(箏曲) 舞踊(バレエ、コンテンポラリーダンス) 70分
 対象：小学生以上、保護者・指導者等、一般(啓発)



3 オペラ ルドルフとイッパイアッテナ

申請者：オペラシアターこんにゃく座
 分野：その他(オペラ)90分
 対象：小学生、保護者・指導者等、一般(啓発)



4 11ぴきのねこ

申請者：有限会社人形劇団クラルテ
 分野：演劇(人形劇)45分
 対象：幼児、小学生、保護者・指導者等、一般(啓発)



5 ほっこりしあたい

「おふるだいすき」
 「カクちゃんとまるちゃん」
 「こぶたのるーた」

申請者：有限会社人形劇団京芸
 分野：演劇(人形劇)45分
 対象：乳児、幼児、小学校低学年、保護者・指導者等



6 とどろけ淵のメツケ

申請者：有限会社人形劇団京芸
 分野：演劇(人形劇)75分
 対象：小学生、中学生、保護者・指導者等、一般(啓発)

特別推薦



7 らぐずたいむ

申請者：ラストラダカンパニー有限公司
 分野：演劇（道化芝居）45分
 対象：幼児以上、保護者・指導者等



8 夢団ファンタジー・ミュージカル あらしのよるに

申請者：夢団株式会社
 分野：演劇（ミュージカル）90分
 対象：小学生、中学生、保護者・指導者等

映像・メディア等部門

	作品名	申請者	分野	対象
1 特別推薦	ぼくたちの哲学教室	doodler	ドキュメント 106分	小学校高学年以上、 保護者・指導者等、 一般（啓発）
2	ブルーバック あの海を見ていた	株式会社新日本映画社 エスパース・サロウ	ドラマ 103分	小学校高学年以上、 保護者・指導者等、 一般（啓発）
3	ロッタちゃん はじめてのおつかい (Lotta flyttar hemifrån)	有限会社エデン	ドラマ 85分	幼児以上、 保護者・指導者等、 一般（啓発）
4	ロッタちゃんと赤いじてんしゃ (Lotta flyttar hemifrån)	有限会社エデン	ドラマ 79分	幼児以上、 保護者・指導者等、 一般（啓発）
5	1%の風景	合同会社リガード	ドキュメント 106分	小学校高学年以上、 保護者・指導者等、 一般（啓発）
6	わたしのかあさん —天使の詩—	株式会社現代ぶろだくしょん	ドラマ 113分	小学校中学年以上、 保護者・指導者等、 一般（啓発）
7 特別推薦	チョコレートな人々	東海テレビ	ドキュメント 102分	小学校高学年以上、 保護者・指導者等、 一般（啓発）
8 特別推薦	窓ぎわのトットちゃん	シンエイ動画株式会社	アニメ 114分	小学生以上、 保護者・指導者等、 一般（啓発）

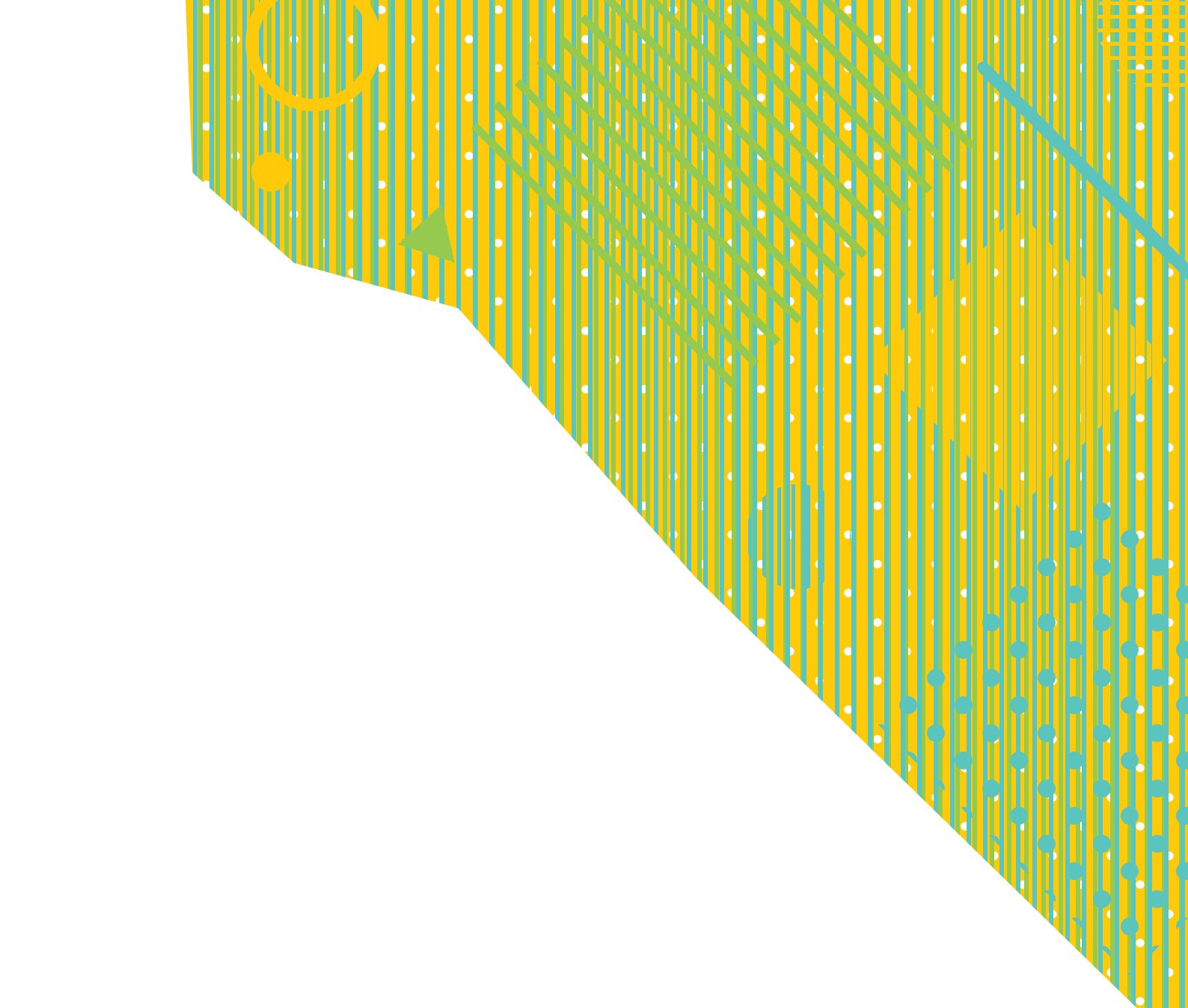
出版物部門

	作品名	申請者	発行年月	著者／訳者／絵画	対象
1	こうもり	株式会社信成社	2022年7月	作：アヤ井アキコ 監修：福井大	小学校中学年
2	うに とげとげ いきもの きたむらさきうにの ひみつ	株式会社仮説社	2022年10月	文：吾妻行雄 / 青木優和 絵：畑中富美子	小学校中学年以上
3 特別 推薦	もりはみている	株式会社福音館書店	2021年9月	文・写真：大竹英洋	幼児以上
4	ここがわたしのねるところ せかいのおやすみなさい	株式会社福音館書店	2022年2月	文：レベッカ・ボンド 作画：サリー・メイバー 訳：まつむら ゆりこ	幼児以上
5	おしりじまん	株式会社福音館書店	2022年3月	作：齋藤楨	幼児
6	へんしん すがたをかえるイモムシ	株式会社福音館書店	2022年4月	作：桃山 鈴子 解説・監修：井上 大成 デザイン：大島依提亜	幼児以上
7	ブルガリアの昔話 いのちの水	株式会社福音館書店	2022年4月	絵：ベネリン・バルカノフ 再話：八百板洋子	小学校中学年以上
8	タヌキの土居くん	株式会社福音館書店	2022年3月	作：富安陽子 画：大島妙子	小学校中学年
9	スクラッチ	株式会社あかね書房	2022年6月	作：歌代朔	中学生
10	ジャングルジム	有限会社ゴブリン書房	2022年12月	作：岩瀬成子 絵：網中いつる	小学校中学年以上
11	貝のふしぎ発見記	株式会社少年写真新聞社	2022年6月	写真・文：武田晋一 監修：福田宏	小学校中学年以上
12	へび ながすぎる	株式会社こくま社	2022年5月	作：ふくなが じゅんべい	幼児
13	きみの人生はきみのもの 子どもが知っておきたい「権利」の話	株式会社NHK出版	2023年1月	著：谷口真由美 / 荻上チキ	小学校高学年以上
14	少年のための少年法入門	株式会社旬報社	2022年2月	監修：山下 敏雅 / 牧田 史 / 西野 優花	中学生以上
15	なりたいわたし	株式会社フレール館	2022年10月	作：村上しいこ 絵：北澤平祐	小学校中学年
16	ライトニング・メアリ 竜を発掘した少女	株式会社岩波書店	2022年2月	作：アンシア・シモンズ 訳：布施由紀子 絵：カシワイ	中学生以上
17	ゴリランとわたし	株式会社岩波書店	2021年4月	作：フリーダ・ニルソン 訳：よこのなな 絵：ながしまひろみ	小学校中学年以上
18	「ヒロシマ消えたかぞく」のあしあと	株式会社ポプラ社	2022年7月	著：指田和	小学校高学年
19	ニッキーとヴィエラ ホロコーストの静かな英雄と救われた少女	B.L出版株式会社	2022年3月	作：ピーター・シス 訳：福本友美子	小学校高学年
20	このあなんじゃ ・ひがたのいきものへん ・つちのなかのいきものへん ・ちそうのせいこんかせき へん	株式会社仮説社	2020年4月2022年5月 2023年5月	文：きむらたえこ 文：さかもとひろのり 文：いずみけんたろう 絵：みぞぐちともや	幼児
21 特別 推薦	カメラにうつらなかった真実 3人の写真家が見た日系人収容所	株式会社徳間書店	2022年12月	文：エリザベス・バートリッジ 絵：ローレン・タマキ 訳：松波佐知子	中学生以上
22 特別 推薦	アマゾン川 熱帯雨林・生命の源	株式会社徳間書店	2022年7月	文：サンクマ・フランシス 訳：ゆらしようこ 絵：ロモロ・ディゴリト	小学校高学年以上
23 特別 推薦	ひみつの犬	株式会社岩崎書店	2022年10月	著：岩瀬成子 装画・挿画：ヒラトシキ	小学校高学年

	作品名	申請者	発行年月	著者／訳者／絵画	対象
24 特別推薦	やさいのはな なんのはな?	株式会社岩崎書店	2023年5月	構成・文：宮崎祥子 写真：網野文絵	幼児、小学校低学年
25	ウマと話すための7つのひみつ	株式会社信成社	2022年10月	文と絵：河田棧	小学校中学年以上
26 特別推薦	チャンス はてしない戦争をのがれて	株式会社小学館	2022年10月	作：ユリ・シュルヴィッツ 訳：原田勝	小学校高学年以上
27	鳴き声でぎずなを結ぶ エゾナキウサギ	株式会社文一総合出版	2023年10月	写真・文：佐藤圭	小学校中学年以上
28	はっばのほん	株式会社文一総合出版	2023年8月	著者：いわさゆうこ	小学生以上
29 特別推薦	LGBTだけじゃない！ わたしの性（全4巻） ・ジェンダー・アイデンティティ ・からだの性 ・好きのありかた ・性役割／性別表現	株式会社 国土社	2022年6月 2022年6月 2022年11月 2023年1月	監修：佐々木肇子／長谷川奉延	小学校高学年以上、 保護者・指導者等、 一般（啓発）
30 特別推薦	じゅげむの夏	株式会社佼成出版社	2023年7月	作：最上一平 絵：マメイケダ 装丁：中嶋香織	小学校中学年
31 特別推薦	手で見るぼくの世界は	株式会社くもん出版	2022年11月	作：樫崎茜 画：酒井以	中学生
32	屋根のうえのバトンリレー 日本でいちばん南にあるかやぶきの家	株式会社ほるぷ出版	2022年10月	写真と文：横塚眞己人	小学校中学年・高学年
33	きみの話を聞かせてくれよ	株式会社フレーベル館	2023年4月	作：村上雅都 絵：カクイ	中学生
34	わたしたちのケーキのわけかた	株式会社信成社	2023年11月	作者：私・ヒョウ 訳者：おおたけきよみ	小学校低学年・中学年
35	おくちのたいそう あいうえお	株式会社あすなろ書房	2023年1月	文：木坂 涼 絵：スギヤマカゴ	幼児、小学校低学年
36	あきのおさんぽ いいものいくつ?	株式会社福音館書店	2023年9月	作：おおたぐりまり	幼児
37	聞いて聞いて！ 音と耳のはなし	株式会社福音館書店	2023年3月	文：高津修／遠藤義人 絵：長崎訓子	小学校中学年
38	わたしは反対！ 社会をかえたアメリカ最高裁判事 ルース・ベイダー・ギンズバーグ	有限会社子どもの未来社	2022年11月	文：デビー・リヴィ 絵：エリザベス・バドリー 訳：さくまゆみこ	小学校高学年以上
39	チベットのむかしばなし しかばねの物語	有限会社のら書店	2023年9月	編訳：星泉 絵：蔵西 装丁：タカハシデザイン室 編集：佐藤友紀子	小学校高学年以上
40	すごいグラウンドの育て方 阪神甲子園球場のひみつ	株式会社 Gakken	2023年8月	著：金沢健児 カバーイラスト：東京メロンボーイ（浦上和久） 本文イラスト：工藤ケン	小学校中学年以上







【調査研究委員】

- 大倉 毅 (目黒区子育て支援部 子育て支援課 児童館係 係長)
方 勝 (玉川大学 名誉教授)
小林 由利子 (明治学院大学 心理学部教授)
佐野 真一 (公益財団法人 健全育成事業部 部長)
長崎 由紀 (岩手県立児童館 いわて子どもの森 チーフプレーリーダー)
渡部 博昭 (一般財団法人 児童健全育成推進財団 事業部長)

【専門員】

- 兵藤 禎晃 (ラストラーダカンパニー 有限会社代表取締役)
吉村 温子 (特定非営利活動法人 こどもの城合唱団 代表理事)


【ワーキング委員】

- 姥名 野亜 (世田谷区立野毛青少年交流センター)
下村 一 (世田谷区立希望丘青少年交流センター)
翠尾 由美 (港区立麻布子ども中高生プラザ)
山本 博之 (目黒区立碑住区センター児童館)
渡邊 恒一 (草加市立氷川児童センター)

【デザイン】

- 小松 礼

(五十音順)



児童館等における児童福祉文化財を活用した
遊びのプログラムの開発および普及に関する調査研究(令和5年度)

令和6年3月発行
発行：こども家庭庁 成育局成育環境課

編集：公益財団法人 児童育成協会